

情報処理技能検定試験

データベース

模擬問題集

Microsoft Access 2013
試験問題解答方法

2023年4月

1.2 級編

データベース



日本情報処理検定協会

情報処理技能検定試験（データベース）についての注意事項や作成手順などを紹介します。ここで紹介する手順は、Microsoft Access2013 を基に説明しています。

練習を始める前に

「データベース」とは

決められた目的やテーマをデータ単位にまとめて大量に管理し、条件に沿ったデータを抜き出すためにひとつのファイルにまとめたものです。

情報処理技能検定試験（データベース）問題文の構成

< 2 級問題 >

情報処理技能検定試験（データベース） 2 級練習問題

<問 題>

1. 各テキストデータ（日本語シフト JIS、CSV 形式）を使用して<テーブル定義>を基にテーブルを作成し、<処理条件>に従って<出力例>のような表を完成し、印刷しなさい。
文字は左揃え、数値は右揃えとし、3 桁ごとにコンマをつけること。

2. テキストデータは DB2-00 フォルダ内のデータを使用する。

3. 試験時間は 30 分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<テーブル定義>

顧客マスタ

KEY	項目名	データ型	データ例
○	顧客CO	長整数型	1
	顧客名	テキスト型	吉浦 幸美
	担当者CO	長整数型	12
	割引率	小数点付き小数型	0.1

※顧客マスタ.csv の 1 行目は項目名とする。

担当者マスタ

KEY	項目名	データ型	データ例
○	担当者CO	長整数型	11
	担当者名	テキスト型	大崎 孝夫
	部署CO	長整数型	100

※担当者マスタ.csv の 1 行目は項目名とする。

請求テーブル

KEY	項目名	データ型	データ例
○	顧客CO	長整数型	1
○	請求月	テキスト型	6 月
	金額	長整数型	35406
	入金フラグ	長整数型	1

<処理条件>

入金済みデータを削除し、未入金額が 500 万円以上の担当者別未入金額一覧表を作成する。

1. <請求テーブル>の入金フラグが 1 のレコードを削除しなさい。
[削除件数: 392 件]

2. それぞれの顧客CO・担当者COを関連付けなさい。
担当者CO・担当者名ごとに金額を集計（合計）しなさい。
金額の集計は「未入金額」とする。
未入金額が 5,000,000 以上を抽出しなさい。
[処理結果件数: 6 件]

3. 未入金額の合計を求めた表を作成しなさい。
表題は「担当者別未入金額一覧表（未入金額 500 万円以上）」とする。
データの並び順は未入金額の昇順とし、未入金額はすべて通貨表示とする。
表の形式は<出力例>のとおりとする。

<出力例>

担当者CO	担当者名	未入金額
18	橋原 昭夫	¥5,414,209
	}	
19	池野 正義	¥8,090,782
	合 計	¥XX,XXX,XXX

<問 題>

テキストデータのコード・形式、文字・数値の配置・コンマ付け、保存されているフォルダ名、試験時間について記されています。

<テーブル定義>

データベース内に作成するテーブルの定義が、基となるテキストデータごとに記されています。

（表の項目の説明）

K E Y：○印がある項目を主キーに設定します。
項 目 名：テキストデータを取り込む際に項目名を設定します。
データ型：項目のデータ型。
データ例：テキストデータの、項目名を除いたデータの 1 行目が記されています。

<処理条件>

この記述に従って、クエリやレポートの作成を行います。
※ [] は処理条件ごとのクエリの結果件数または実行時の件数

<出力例>

このような形式で表を完成させます。
表題、項目、項目の順番、罫線の位置は<出力例>のとおりとします。
※フォント・フォントサイズ・書体は問いません。

< 1 級問題 >

情報処理技能検定試験（データベース） 1 級模擬問題 X

<問 題>

1. 各テキストデータ（日本語シフト JIS、CSV 形式）を使用して<テーブル定義>を基にテーブルを作成し、<処理条件>に従って<出力例>のような表を完成し、印刷しなさい。
文字は左揃え、数値は右揃えとし、3 桁ごとにコンマをつけること。

2. テキストデータは DB1-XX フォルダ内のデータを使用する。

3. 試験時間は 30 分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<テーブル定義>

顧客マスタ

KEY	項目名	データ型	データ例
○	顧客CO	長整数型	101
	顧客名	テキスト型	アサヒ
	担当者CO	長整数型	10

※顧客マスタ.csv の 1 行目は項目名とする。

商品マスタ

KEY	項目名	データ型	データ例
○	商品CO	長整数型	1001
	商品名	テキスト型	パイプ
	区分CO	長整数型	4
	単価	長整数型	3380

※商品マスタ.csv の 1 行目は項目名とする。

売上テーブル

KEY	項目名	データ型	データ例
○	顧客CO	長整数型	101
○	売上月	テキスト型	9 月
○	商品CO	長整数型	1001
	数量	長整数型	56

集計売上テーブル

KEY	項目名	データ型	データ例
○	顧客CO	長整数型	101
○	売上月	テキスト型	4 月
○	商品CO	長整数型	1001
	数量	長整数型	71

<処理条件>

9 月の売上を追加し、同じ商品を複数購入した顧客・商品ごとの購入一覧表を作成する。

1. サブテーブルのレコードを<集計売上テーブル>に追加する。

2. 顧客CO・商品COを重複するデータの顧客CO・売上月・数量を抽出する。

3. 顧客CO・商品CO・売上月ごとに売上額を求める。
売上額=単価×数量
区分COが 1 または 3 を抽出する。

4. 顧客CO・顧客名・商品名ごとに数量を集計（最大・最小・合計）し、売上額を集計（合計）する。
数量の集計は「最大数量」、「最小数量」、「合計数量」とし、売上額の集計は「合計売上額」とする。
合計売上額は 1,000,000 以上を抽出する。

5. 表を作成する。
表題は「顧客別リピート購入品一覧表」とする。
データの並び順は合計売上額の昇順とし、表の形式は<出力例>のとおりとする。

<出力例>

顧客CO	顧客名	商品名	最大数量	最小数量	合計数量	合計売上額
1006	清水 ヒノキ	211	16	300	1,500,000	
		}				
112	ユタ 分電盤	111	39	293	1,800,550	

<処理条件>

この記述に従って、クエリやレポートの作成を行います。
2 級以下と異なり、どのテーブルの項目を関連付けるかは記されていません。

<処理フロー>

それぞれの処理条件で使用するテーブル（またはクエリ）が記されています。処理条件ごとに、使用するテーブルと出力するテーブル（またはクエリ）、クエリの結果件数や実行時の件数を確認しながら処理を行います。関連付けは、処理フローに記述されているテーブルの同一項目を関連付けします。

用語の説明

日本語シフトJIS：日本語文字コードのひとつ

C S V 形 式：ファイル内のデータの形式（Comma Separated Values の略）で、項目がコンマで区切られているファイル形式

デ ー タ 型：項目（フィールド）に保存できる値の種類

テ ー ブ ル：情報を蓄える場所

ク エ リ：条件に合わせて情報を処理する機能

レ ポ ー ト：さまざまな形で帳票を作成する機能

1 級 処理フローについて

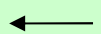
<処理フロー>内の図形の説明



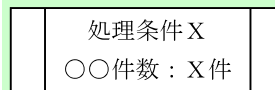
テキストデータから作成されたテーブル



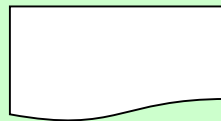
処理中に作成されたクエリまたはテーブル



データの流れ



<処理条件>に記された処理と件数



<出力例>に記された帳票

1 級では、使用するテーブルは<処理フロー>を参照し、それぞれの<処理条件>に従って表を完成させます。なお、関連付けは<処理フロー>で指示されたテーブルの同じ項目名を関連付けします。

【問題文】

<処理条件>

後期期末試験結果のレコードを追加し、文系でクラスごとの科目の平均点を一覧にした表を作成する。

処理条件1

1. <定期考査テーブル>に追加する。
試験CO←50

<試験結果テーブル>を<定期考査テーブル>に追加する処理を行います。

処理条件2

2. 区分が“文系”を抽出する。

<生徒マスタ>・<クラスマスタ>・<試験マスタ>・<科目マスタ>・<定期考査テーブル>の同一項目名を関連付けし、処理結果をクエリとして保存します。

処理条件3

3. 試験CO・試験名・クラス名と科目名ごとに得点を集計（平均）する。

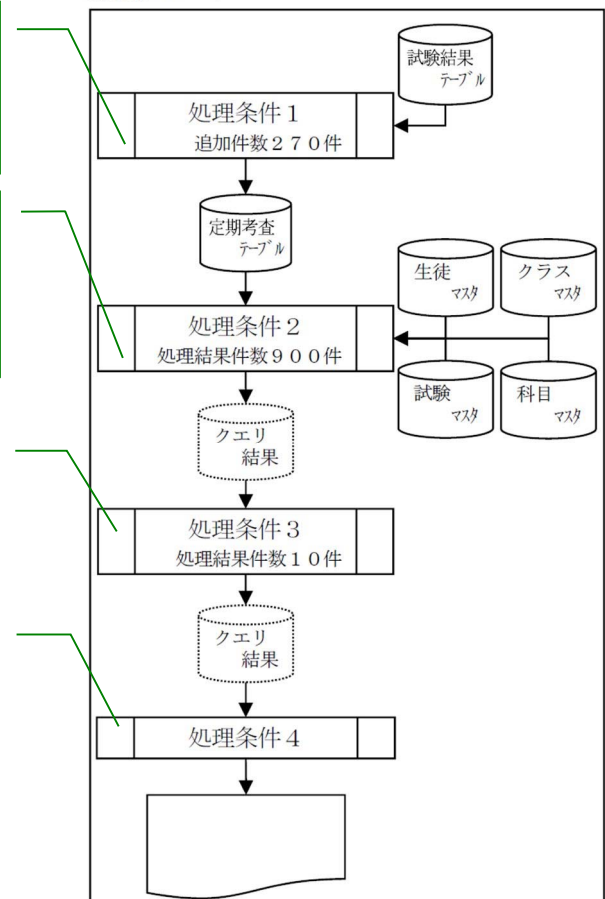
処理条件2のクエリを使用して処理し、クエリとして保存します。

処理条件4

4. 試験CO・試験名でグループ化した表を作成する。
表題は“定期考査平均一覧表（文系）”とする。
データの並び順は試験COの昇順で国語の降順とする。
国語・数学・英語は小数第1位未満四捨五入の表示とし、表の形式は<出力例>のとおりとする。

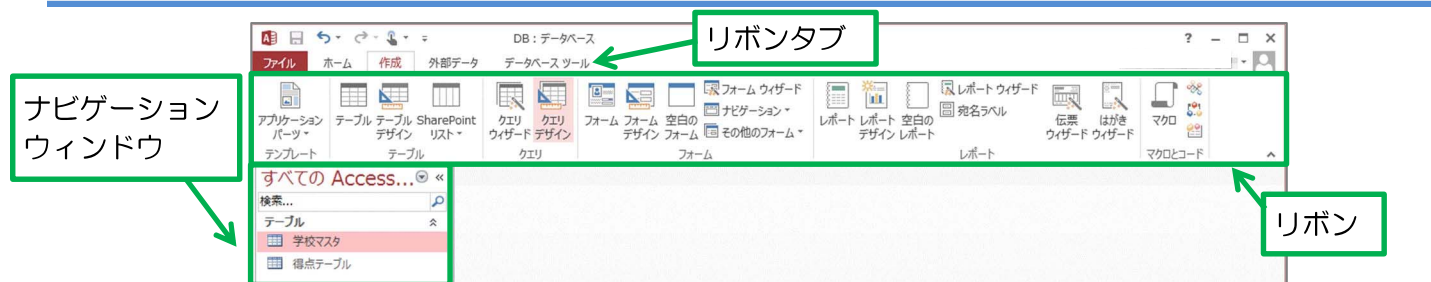
処理条件3のクエリを使用してレポート(表)を作成します。

<処理フロー>



Access の画面構成

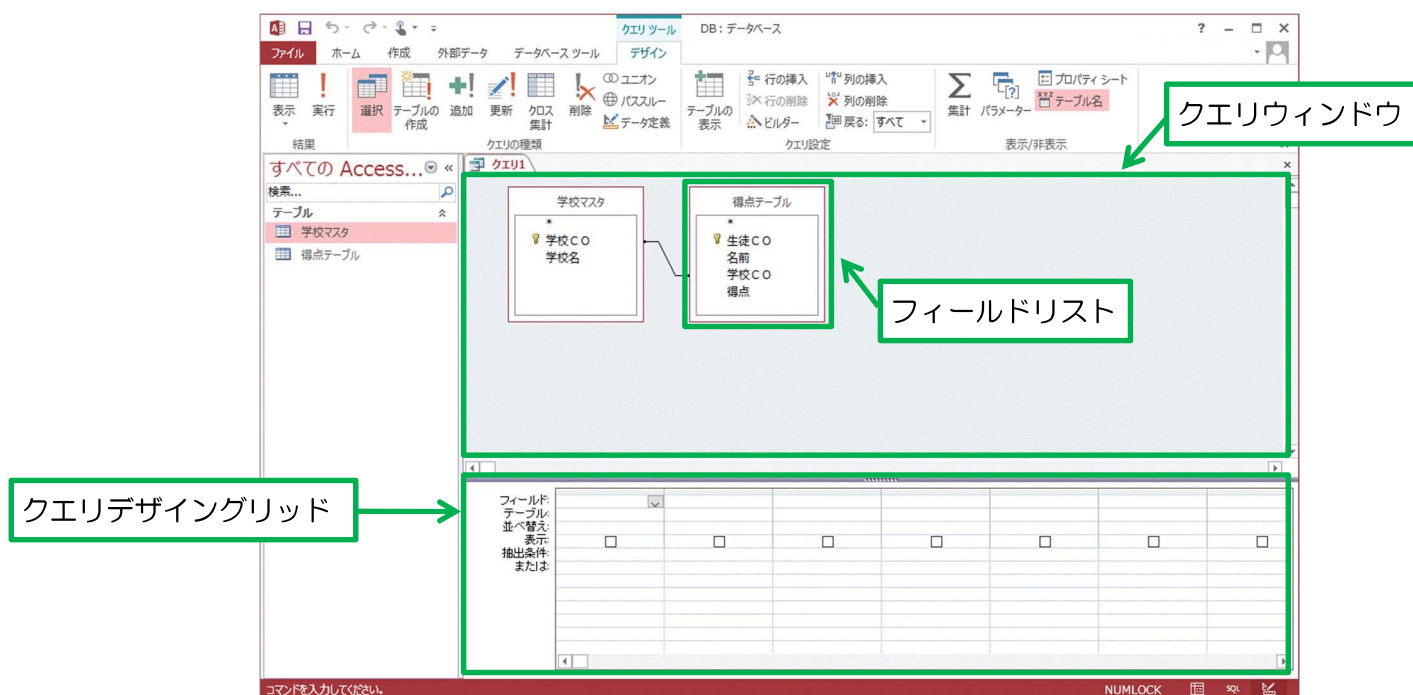
全体の画面について



リボン：リボンの中にあるボタンでさまざまな設定を行います。リボンの上にあるタブを切り替えると設定の内容が切り替わります。

ナビゲーションウィンドウ：データベースのファイル内にあるテーブルやクエリなどを表示します。

クエリの画面について

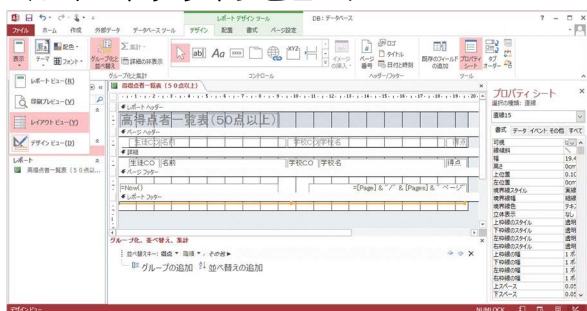


クエリウィンドウ：クエリで使用するテーブルなどを表示します。クエリウィンドウで表示されたテーブルなどの項目一覧を「フィールドリスト」と呼びます。

クエリデザイングリッド：項目（フィールド）をここに追加して結果を表示します。

レポートの画面について

<レポートデザインビュー>



<レポートレイアウトビュー>



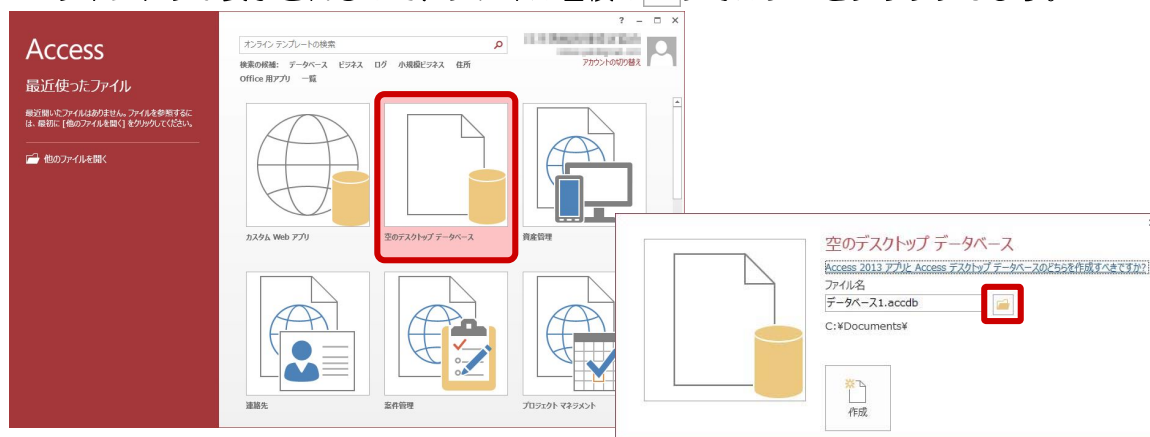
レポートは、作成した表の体裁を整えたり、表示形式を変更したりするため画面を切り替えながら操作します。

レポートデザインビュー：罫線を引いたりテキストボックスに関数を入れたりします。

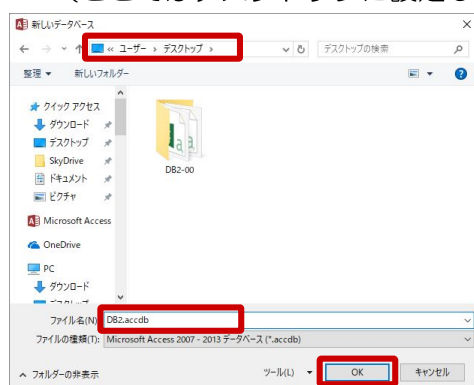
レポートレイアウトビュー：データが表示されるので列の幅を調整しやすくなります。

試験前にすること

- (1)使用するソフトを立ち上げます。「空のデスクトップ データベース」をクリックすると保存先を決めるウィンドウが表示されるので、ファイル名横の  フォルダをクリックします。



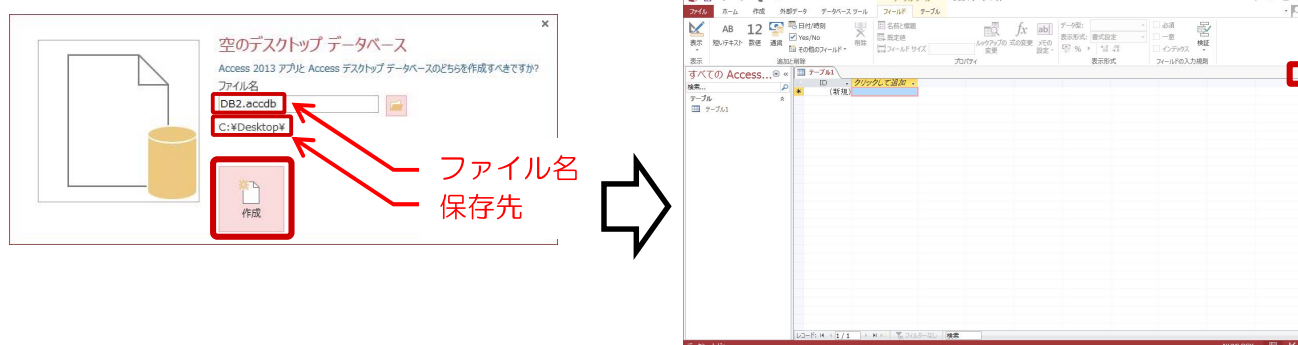
- (2) データベースファイルを指定されたフォルダーに作成します。
保存先を決めて、ファイル名を入力し[OK]をクリックします。
(ここではデスクトップに設定し、ファイル名は「DB2. accdb」とします)



検定のポイント

※保存先およびファイル名は任意の設定にしてください。

- (3) ファイル名と保存先を確認し、[作成]をクリックします。新規テーブルは使用しないので閉じます。



情報処理技能検定試験(データベース) 2級練習問題

<問 題>

- 各テキストデータ（日本語シフトJIS、CSV形式）を使用して<テーブル定義>を基にテーブルを作成し、<処理条件>に従って<出力例>のような表を完成し、印刷しなさい。
文字は左揃え、数値は桁揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- テキストデータはDB2-00 フォルダ内のデータを使用する。
- 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<テーブル定義>

顧客マスタ

KEY	項目名	データ型	データ例
○	顧客CO	長整数型	1
	顧客名	テキスト型	吉浦 幸美
	担当者CO	長整数型	12
	割引率	倍精度浮動小数点型	0.1

※顧客マスタ.csvの1行目は項目名とする。

請求テーブル

KEY	項目名	データ型	データ例
○	顧客CO	長整数型	1
○	請求月	テキスト型	6月
	金額	長整数型	35406
	入金フラグ	長整数型	1

担当者マスタ

KEY	項目名	データ型	データ例
○	担当者CO	長整数型	11
	担当者名	テキスト型	大崎 孝夫
	部署CO	長整数型	100

※担当者マスタ.csvの1行目は項目名とする。

<処理条件>

入金済みデータを削除し、未入金額が500万円以上の担当者別未入金額一覧表を作成する。

- <請求テーブル>の入金フラグが1のレコードを削除しなさい。
[削除件数：392件]
- それぞれの顧客CO・担当者COを関連付けしなさい。
担当者CO・担当者名ごとに金額を集計（合計）しなさい。
金額の集計は“未入金額”とする。
未入金額が5,000,000以上を抽出しなさい。
[処理結果件数：6件]
- 未入金額の合計を求めた表を作成しなさい。
表題は“担当者別未入金額一覧表（未入金額500万円以上）”とする。
データの並び順は未入金額の昇順とし、未入金額はすべて通貨表示とする。
表の形式は<出力例>のとおりとする。

<出力例>

担当者別未入金額一覧表（未入金額500万円以上）		
担当者CO	担当者名	未入金額
18	橋原 昭夫	¥5,414,209
	}	
19	池野 正義	¥8,090,782
	合 計	¥XX,XXX,XXX

2級練習問題解答方法

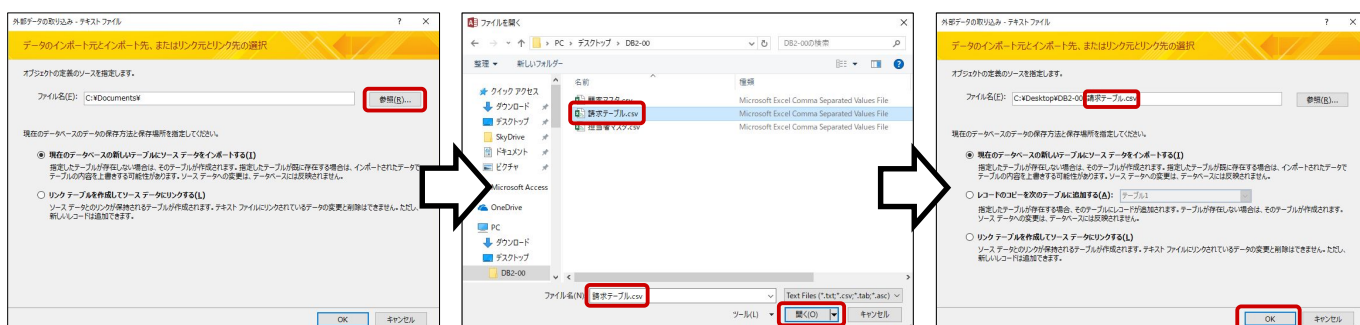
問題文を基に処理条件に従って2級の解答をします。使用データは「DB2-00」フォルダーを使用します。

テキストデータの読み込み

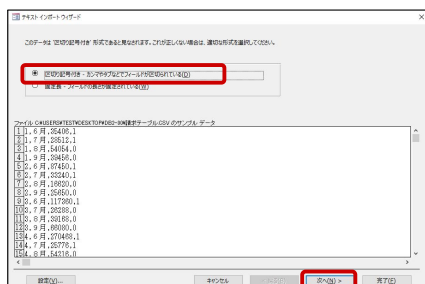
(1) [外部データ]タブ-[インポートとリンク]グループの[テキストファイル]をクリックします。



(2) 問題文で指示のあったファイルを選択します。ファイル名横の[参照]をクリックし「請求テーブル.csv」を選択して[開く]をクリックします。ファイル名に「請求テーブル.csv」があることを確認してから[OK]をクリックします。



(3) [区切り記号付き]を選択していることを確認し、[次へ]をクリックします。



検定のポイント

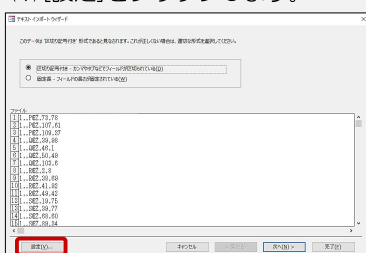
データについて
インポートするデータは、当協会ホームページよりあらかじめ、ダウンロードしておいてください。

検定のポイント

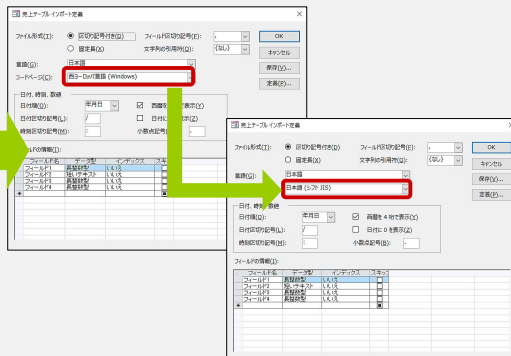
インポート時に文字化けが発生した場合の対処方法

インポートするファイルによっては、Access が文字コードを正しく認識できず文字化けが発生する場合があります。この場合は、以下の手順で正しいコードページに変更する必要があります。

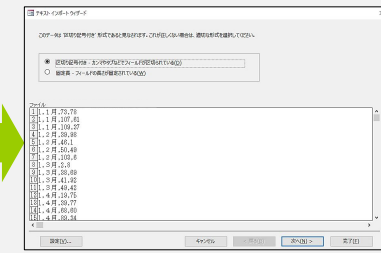
(1) [設定]をクリックします。

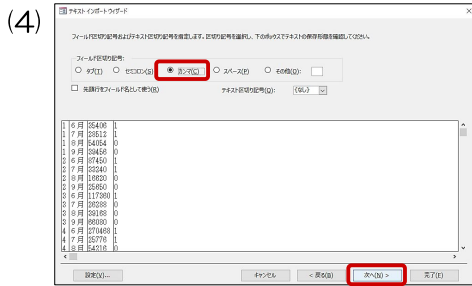


(2) [コードページ]に[日本語 (シフト JIS)]を選択します。



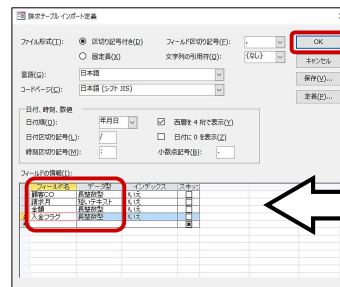
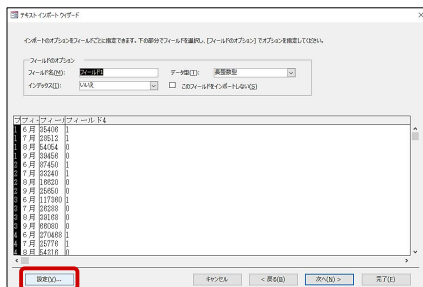
(3) 正しく認識されます。





[フィールド区切り記号]の[カンマ]を選択し、
[次へ]をクリックします。

(5) [設定]をクリックし、問題文の<テーブル定義>を参照し、すべての「項目名」([フィールド名])を設定し、[データ型]を確認して[OK]をクリックします。

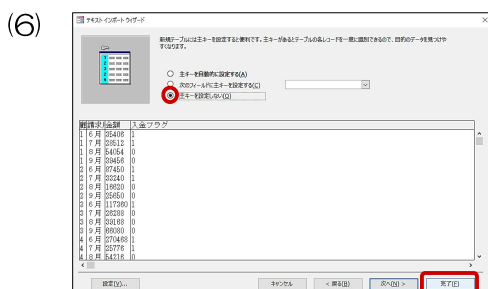


KEY	項目名	データ型	データ例
○	顧客C O	長整数型	1
○	請求月	テキスト型	6月
	金額	長整数型	35406
	入金フラグ	長整数型	1

検定のポイント

※問題文に「※・・・の1行目は項目名とする。」と指示されている場合、[先頭行をフィールド名として使う]にチェックを入れます。

※問題文のデータ型の「テキスト型」は[短いテキスト]であることを確認します。



[主キーを設定しない]にチェックし、インポートを完了します。

(7) インポートしたテーブル名を右クリックし、デザインビューを選択します。



(8) 主キーを設定する[フィールド名]の左側の行セクタをドラッグして選択し、[テーブルツール]-[デザイン]タブ-[ツール]の[主キー]をクリックして設定後、保存します。



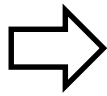
(9) 同様の手順で「顧客マスタ」、「担当者マスタ」のテキストデータを読み込みます。

クエリの作成

削除クエリの作成

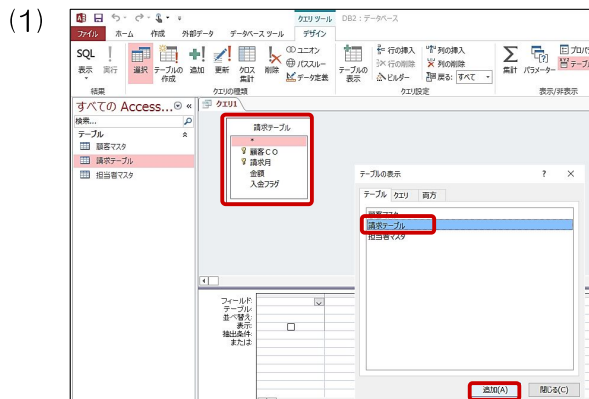
削除クエリはテーブルの項目の抽出条件を満たすレコードを削除します。

顧客CO	請求月	金額	入金フラグ
1	6月	35,406	1
1	7月	28,512	1
1	8月	54,054	0
1	9月	39,456	0
2	6月	87,450	1
2	7月	33,240	1
2	8月	16,620	0
2	9月	25,650	0



顧客CO	請求月	金額	入金フラグ
1	8月	54,054	0
1	9月	39,456	0
2	8月	16,620	0
2	9月	25,650	0

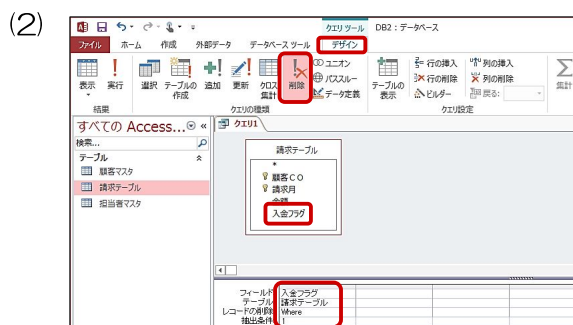
1. <請求テーブル>の入金フラグが1のレコードを削除しなさい。
[削除件数：392件]



[作成]タブ-[クエリ]グループの[クエリデザイン]をクリックし、[テーブルの表示]ダイアログボックスから[請求テーブル]を選択して[追加]をクリックし、[テーブルの表示]ダイアログボックスは[閉じる]で閉じます。

操作のポイント

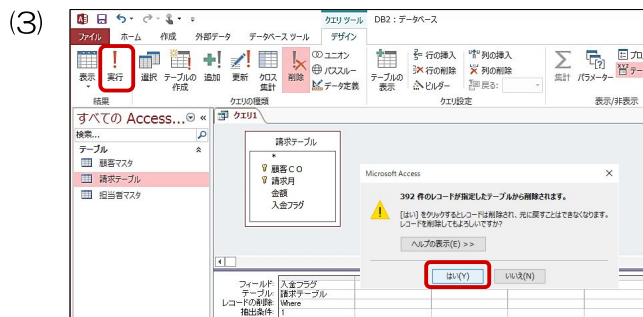
クエリウィンドウに追加する際に、ダブルクリックしても追加できます。



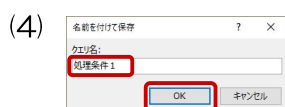
[クエリツール]-[デザイン]タブ-[クエリの種類]グループの[削除]をクリックし、クエリデザイングリッドに「入金フラグ」を追加して[抽出条件]に「1」と入力します。

操作のポイント

数値・関数・計算式などを入力する際は、必ず半角で入力してください。



[結果]グループの[実行]をクリックし、「392件のレコードが指定したテーブルから削除されます。」のメッセージの[はい]をクリックします。

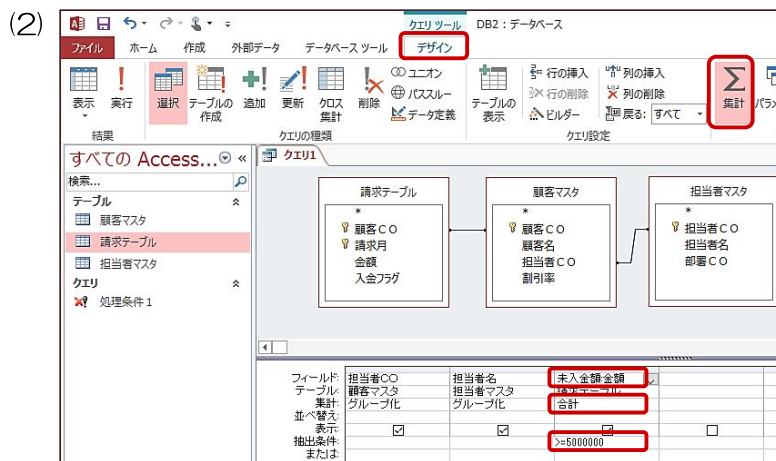
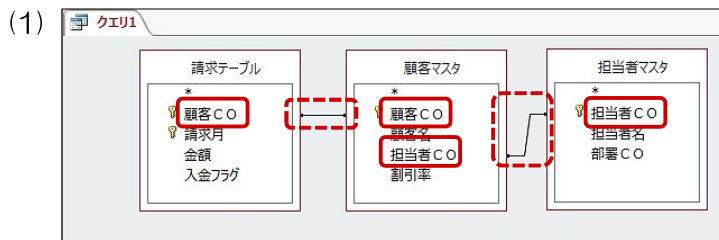


顧客CO	請求月	金額	入金フラグ
1	6月	35,406	1
1	7月	28,512	1
1	8月	54,054	0
1	9月	39,456	0
2	6月	87,450	1
2	7月	33,240	1
2	8月	16,620	0
2	9月	25,650	0

作成したクエリをクエリ名「処理条件 1」として[名前を付けて保存]します。「請求テーブル」を開き、「入金フラグ」が「1」のレコードが削除されているか確認します。

クエリの作成

- それぞれの顧客CO・担当者COを関連付けしなさい。
担当者CO・担当者名ごとに金額を集計（合計）しなさい。
金額の集計は“未入金額”とする。
未入金額が 5,000,000 以上を抽出しなさい。
[処理結果件数：6 件]



検定のポイント

日付／時刻型の項目で条件を入力すると前後に「#」が付きます。

抽出条件: 2023/04/01
または:



抽出条件: #2023/04/01#
または:

必要な項目があるテーブルをクエリウィンドウに追加し、「顧客CO」と「担当者CO」があるテーブルをそれぞれ関連付けします。

検定のポイント

「それぞれの…」と指示にある場合はすべてのテーブルを、それ以外は指示どおりのテーブルを追加します。

[クエリツール]-[デザイン]タブ-[表示／非表示]グループにある[集計]をクリックし、[抽出条件]に「>=5000000」と入力します。
「金額」の[集計]を[合計]にし、項目名の前に「未入金額:」と入力します。

操作のポイント

必ず半角で入力してください。

比較演算子

条件文	設定例
未入金額が 5,000,000	=5000000
未入金額が 5,000,000 より小さい (未満)	<5000000
未入金額が 5,000,000 より大きい	>5000000
未入金額が 5,000,000 以下	<=5000000
未入金額が 5,000,000 以上	>=5000000
未入金額が 5,000,000 以外	<>5000000

- [データシートビュー]をクリックして結果の確認をし、「処理条件2」と名前を付けて保存をします。

クエリ1

担当者CO	担当者名	未入金額
12	山原 恵夫	7765459
15	佐藤 昭夫	6790359
16	伊藤 純義	6636989
18	橋原 昭夫	5414209
19	池野 正義	8090782
20	山本 孝一	7191805

操作のポイント

Where 条件について

抽出条件で使用する項目を、グループ集計処理の対象としない場合、集計の設定に「Where 条件」を使用します。

レポートの作成

- 未入金額の合計を求めた表を作成しなさい。
表題は“担当者別未入金額一覧表（未入金額 500 万円以上）”とする。
データの並び順は未入金額の昇順とし、未入金額はすべて通貨表示とする。
表の形式は＜出力例＞のとおりとする。

- [作成]タブ-[レポート]グループの[レポートウィザード]をクリックします。



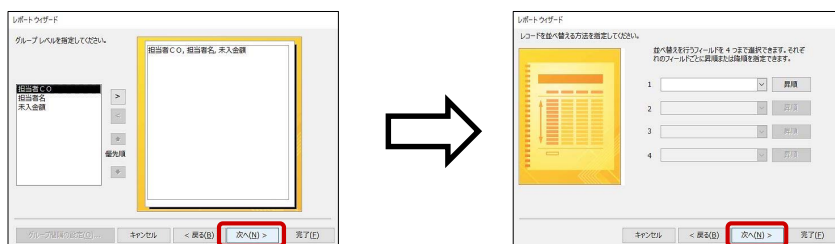
- (2) 「クエリ: 処理条件2」を選択し、[>>]（すべて選択）をクリックして＜出力例＞の項目を選択します。すべて選択されたことを確認し、[次へ]をクリックします。



操作のポイント

問題によってはレポートを作成する際、クエリで追加した項目の中で、＜出力例＞では表示しない項目もあります。その際は、[>]・[<]といった（単一選択）もしくは[>>]・[<<]（すべて選択）を使って[選択可能なフィールド]から[選択したフィールド]へ移動させます。

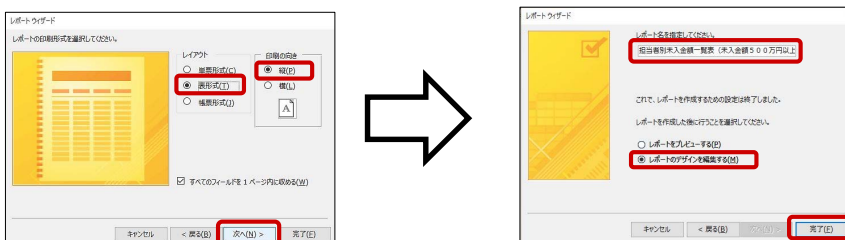
- (3) グループレベルは、何も設定せず[次へ]をクリックします。レコードを並べ替える方法も[次へ]をクリックします。



検定のポイント

レポートウィザードで並べ替えを行うと項目の並びが変わるためここでは行わず、後で行います。

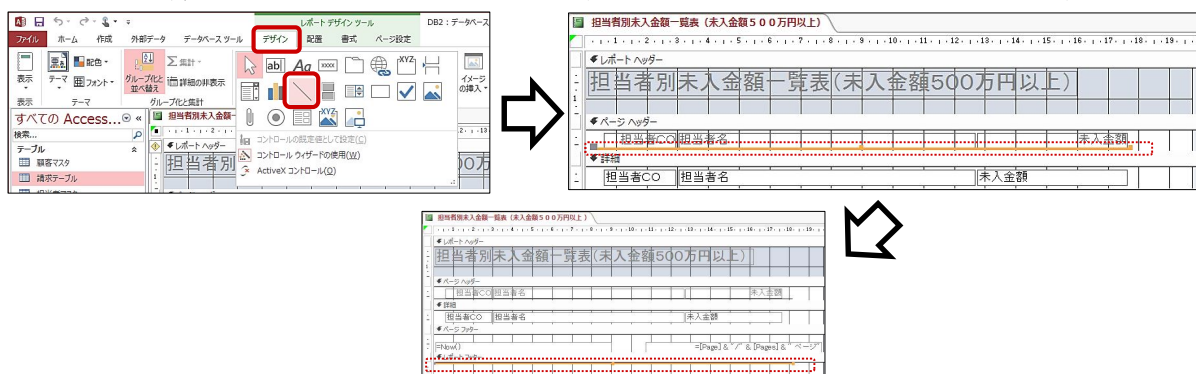
- (4) レポートの印刷形式の[レイアウト]は、[表形式]を選択し、[印刷の向き]は[縦]になっていることを確認し、[次へ]をクリックします。レポート名を＜処理条件＞で指示された表題「担当者別未入金額一覧表（未入金額500万円以上）」と入力し、[レポートのデザインを編集する]にチェックを入れて[完了]をクリックします。



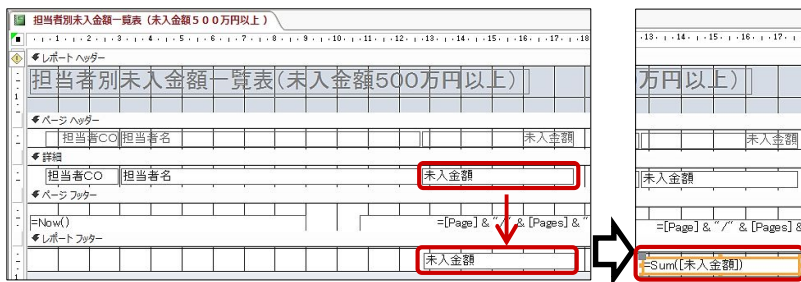
- (5) レポートが作成され、デザインビューで表示されました。



- (6) [レポートデザインツール]-[デザイン]タブ-[コントロール]グループ右下の[その他]を選択し、一覧の中にある[直線]を選択して[Shift]キーを押しながらドラッグしてページヘッダーに挿入します。レポートフッターの領域を広げ、ページヘッダーの罫線をコピーし、レポートフッターに罫線を貼り付けます。



- (7) [詳細]セクションのテキストボックス「未入金額」をコピーし[レポートフッター]に貼り付けます。コピーしたテキストボックスを「未入金額」と同じ列に移動し **F2** キーを押して、「=sum(未入金額)」と入力します。



操作のポイント

入力した関数が正しければ、修正確定後「=Sum([. . .])」となります。

<その他の関数>

平均 : =Avg (項目名)
最大 : =Max (項目名)
最小 : =Min (項目名)
カウント : =Count (項目名)

- (8) [ページヘッダー]のラベル「未入金額」をコピーし、レポートフッターに貼り付け、「合計」に修正します。



- (9) [レポートデザインツール]-[デザイン]タブ-[グループ化と集計]グループの[グループ化と並べ替え]をクリックし[グループ化、並べ替え、集計]グループの[並べ替えの追加]をクリックします。

[レポートデザインツール]-[デザイン]タブ-[グループ化と集計]グループの[グループ化と並べ替え]をクリックし[グループ化、並べ替え、集計]グループの[並べ替えの追加]をクリックします。

- (10) [並べ替えキー]を「未入金額」にし、[昇順]を選択します。



- (11) 表示形式を変更したいテキストボックスを選択し、[プロパティシート]の[書式]タブの[書式]から[通貨]を、[小数点以下表示桁数]から[0]を選択します。



操作のポイント

レイアウトビューに切り替えると書式の変更が確認できます。

操作のポイント

その他の表示形式について

指示によって以下のような設定をする場合があります。処理条件の指示に従って表示形式設定をしてください。

処理条件の表示の指示	書式	小数点以下表示桁数
3桁ごとにコンマ 整数未満四捨五入	標準	0
3桁ごとにコンマ 小数第2位未満四捨五入	標準	2
%の小数第1位未満四捨五入	パーセント	1
通貨表示	通貨	0

(12)項目をクリックして、ドラッグして整えます。

担当者CO	担当者名
18	橋原 昭夫
16	伊藤 純義
15	佐藤 昭夫
20	山本 孝一
12	山原 恵夫
19	池野 正義

検定のポイント

表示しきれていない項目やデータがあると、減点や不合格になる場合があります。必ず表示されているか確認をし、幅の調整を行ってください。

(13)項目を選択してからドラッグして調整します。

担当者CO	担当者名
18	橋原 昭夫
16	伊藤 純義
15	佐藤 昭夫
20	山本 孝一
12	山原 恵夫
19	池野 正義

検定のポイント

※フォント、フォントサイズ、色、罫線の太さは問いません。また、文字に網かけがされていても減点としません。
※ページフッターに、日付やページ番号が印刷されていても減点としません。

操作のポイント

ラベル テキストボックス	サイズ変更	[Shift] キーを押しながら、矢印キーで変更
	移動	矢印キーで移動
	複数選択	[Shift] キーを押しながら、各ラベル・テキストボックスをクリック

受験番号・名前の入力について

受験番号、名前はレポートの任意の箇所（レポートヘッダーやレポートフッターなど）に入力します。

設定例)

[ページヘッダー]のラベル「担当者名」をコピーし、レポートヘッダーに貼り付け、ラベル内に受験番号・名前を入力します。

担当者CO	担当者名	未入金額
001	日横 太郎	

試験後にすること

解答の印刷

解答の印刷は試験時間後に行います。

検定のポイント

項目の一部が切れていたり、2ページに渡っていたりする場合は減点となりますので、印刷プレビューやレイアウトビューで確認してください。

解答の印刷例

担当者別未入金額一覧表(未入金額500万円以上) 001 日検 太郎		
担当者CO	担当者名	未入金額
18	橋原 昭夫	¥5,414,209
16	伊藤 純義	¥6,636,989
15	佐藤 昭夫	¥6,790,359
20	山本 孝一	¥7,191,805
12	山原 恵夫	¥7,765,459
19	池野 正義	¥8,090,782
合 計		¥41,889,603

その他の問題（2級）

問題集で出題される処理条件について解説します。

すべてのレコードの追加

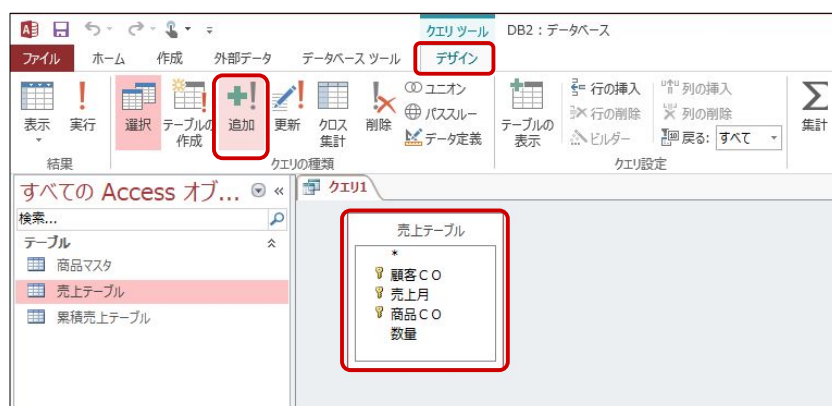
テーブルのすべてのデータを別テーブルに追加します。

(例：2級－9 P. 44)

1. <売上テーブル>のすべてのレコードを<累積売上テーブル>に追加しなさい。

[追加件数：417件]

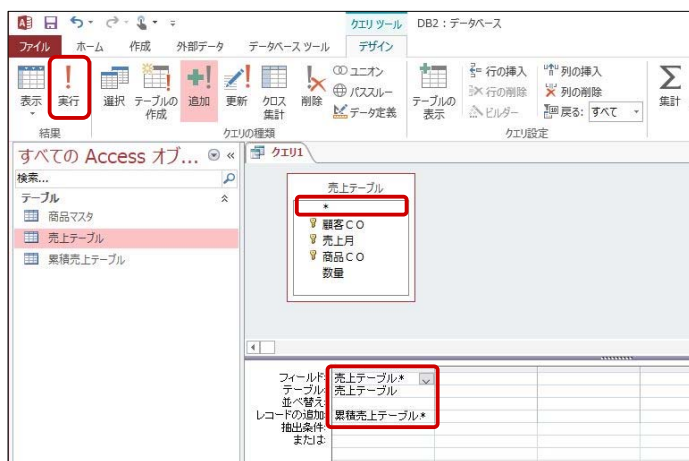
(1)クエリを新規作成し、「売上テーブル」をクエリウィンドウに追加して[クエリツール]-[デザイン]タブ-[クエリの種類]グループの[追加]をクリックします。



- (2) [追加]ダイアログボックスが表示されるので[追加先]の[テーブル名]に「累積売上テーブル」を選択し、[OK]をクリックします。



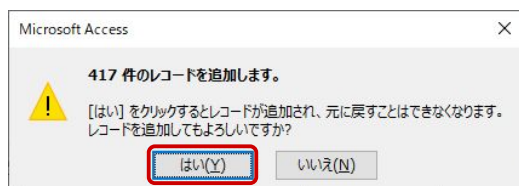
- (3) 「売上テーブル」の「*」をデザイングリッドに追加し、[実行]をクリックします。



操作のポイント

「*」とは、テーブルやクエリのフィールドリストにあるすべてのフィールドを意味します。ここではすべての項目データを追加するため、「*」を使ってすべて選択をしています。

- (4) 「417件のレコードを追加します。」のメッセージで[はい]をクリックします。



- (5) クエリに名前を付けて保存します。

「売上テーブル」のデータ417件が、「累積売上テーブル」に追加されていることが確認できます。

売上テーブル

顧客CO	売上月	商品CO	数量
101	7月	1038	55
101	7月	1041	38
102	7月		
102	7月		
103	7月		
105	7月		
105	7月		
105	7月		
106	7月		
107	7月		
107	7月		
108	7月		
110	7月		
110	7月		

レコード: 1 / 417

累積売上テーブル

顧客CO	売上月	商品CO	数量
101	1月	1029	64
101	2月	1032	84
101	4月	1042	20
101	6月	1005	96
101	6月	1025	7
101	7月	1038	55
101	7月	1041	38
102	1月	1008	10
102	1月	1036	38
102	2月	1018	21
102	3月	1025	22
102	6月	1003	45
103	1月	1018	36
103	1月	1039	51
103	1月	1041	83
103	5月	1026	22

レコード: 1 / 1131

累積売上テーブル

顧客CO	売上月	商品CO	数量
101	1月	1029	64
101	2月	1032	84
101	4月	1042	20
101	6月	1005	96
101	6月	1025	7
101	7月	1038	55
101	7月	1041	38
102	1月	1008	10
102	1月	1036	38
102	2月	1018	21
102	3月	1025	22
102	6月	1003	45
102	7月	1023	22
102	7月	1035	73

レコード: 1 / 1548

抽出したレコードの追加

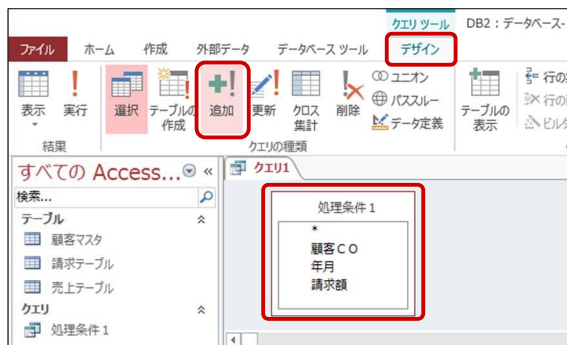
テーブルから抽出したデータを別テーブルに追加します。

(例：2級－13 P. 48)

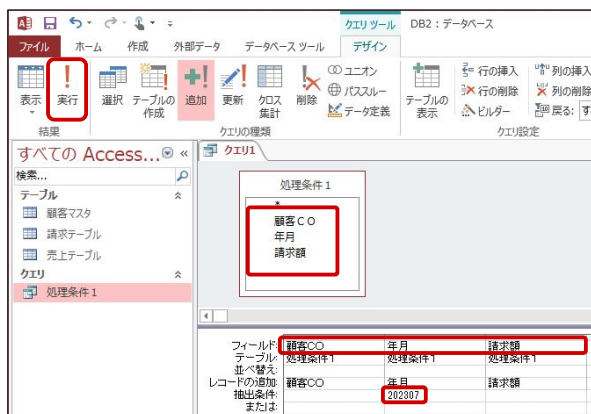
2. <処理条件> 1. の年月が 202307 のレコードを<請求テーブル>に追加しなさい。

[追加件数：70件]

- (1) クエリを新規作成し、処理条件1で作成したクエリをクエリウィンドウに追加して[クエリツール]-[デザイン]タブ-[クエリの種類]グループの[追加]をクリックします。[追加先]を「請求テーブル」にし、[OK]をクリックします。



- (2) 処理条件1の項目すべてをクエリデザイングリッドに追加し、「年月」の[抽出条件]に「202307」と入力し、[実行]をクリックします。

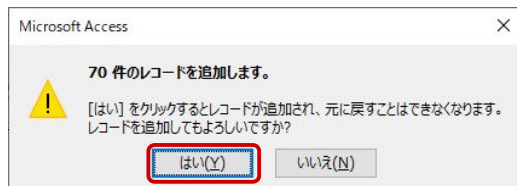


操作のポイント

※[フィールド]と[レコードの追加]の項目名が同じであることを確認しましょう。

フィールド	顧客CO	年月	請求額
テーブル	処理条件1	処理条件1	処理条件1
並べ替え			
レコードの追加	顧客CO	年月	請求額
抽出条件		202307	
またよ			

- (3) 「70件のレコードを追加します。」のメッセージの[はい]をクリックします。



- (4) クエリに名前を付けて保存します。

処理条件1の年月（202307）のレコードが請求テーブルに追加されていることが確認できます。

顧客CO	年月	請求額
101	202304	63500
101	202305	125800
101	202306	108700
101	202307	67100
102	202304	83300
102	202305	118300
102	202306	153300
102	202307	59300

顧客CO	年月	請求額
101	202304	63500
101	202305	125800
101	202306	108700
102	202304	83300
102	202305	118300
102	202306	153300
103	202304	82900
103	202305	86100
103	202306	74000

顧客CO	年月	請求額
101	202304	63500
101	202305	125800
101	202306	108700
101	202307	67100
102	202304	83300
102	202305	118300
102	202306	153300
102	202307	59300

更新クエリ

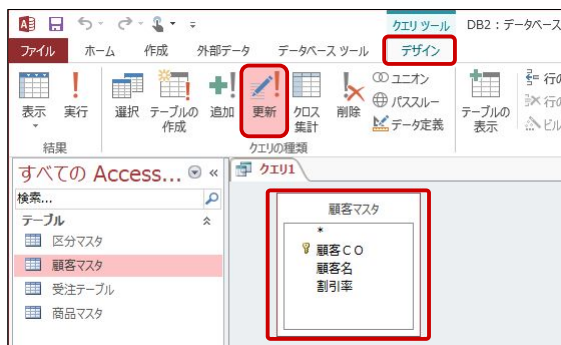
データの中にある指定した数値を置き換えます。

(例：2級－1 P. 36)

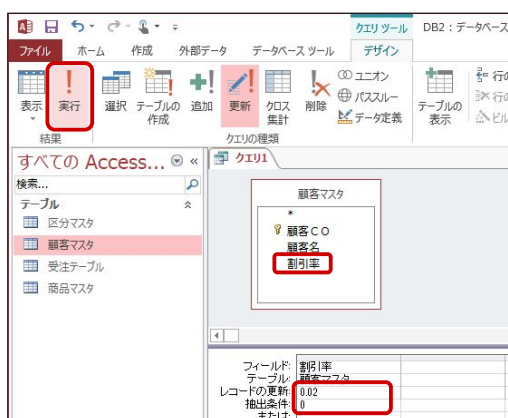
1. <顧客マスタ>の割引率が0のレコードの割引率を0.02に更新しなさい。

[更新件数：18件]

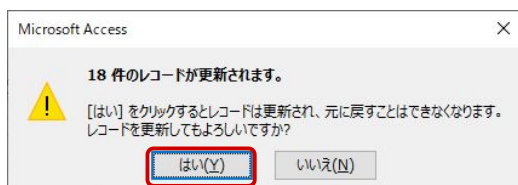
- (1) クエリを新規作成し、「顧客マスタ」をクエリウィンドウに追加して[クエリツール]-[デザイン]タブ-[クエリの種類]グループの[更新]をクリックします。



- (2) デザイングリッドに「割引率」を追加し、「割引率」の[レコードの更新]に「0.02」、「割引率」の[抽出条件]に「0」と入力して[実行]をクリックします。



- (3) 「18件のレコードが更新されます。」のメッセージの[はい]をクリックします。



- (4) クエリに名前を付けて保存します。

「顧客マスタ」を確認すると、「割引率」が「0」のレコードが「0.02」に更新されていることが確認できます。

顧客マスタ	顧客名	割引率
顧客CO	大友 裕二	0.08
101	三輪 暎人	0.06
102	武藤 美優	0.04
103	水本 誠一	0.06
104	大口 純義	0.02
105	石沢 隆志	0.06
106	福井 妃奈	0.04
107	山崎 健介	0
108	坂井 真央	0.06
109	奥村 哲平	0.06
110	森下 博義	0.06
111	有賀 優心	0.08
112	川本 忍	0.06
113	池村 悠仁	0.08
114	坂井 花衣	0.06
115	進藤 真優	0
116	大島 幸太郎	0.02
117		

顧客マスタ	顧客名	割引率
顧客CO	大友 裕二	0.08
101	三輪 暎人	0.06
102	武藤 美優	0.04
103	水本 誠一	0.06
104	大口 純義	0.02
105	石沢 隆志	0.06
106	福井 妃奈	0.04
107	山崎 健介	0.02
108	坂井 真央	0.06
109	奥村 哲平	0.06
110	森下 博義	0.06
111	有賀 優心	0.08
112	川本 忍	0.06
113	池村 悠仁	0.08
114	坂井 花衣	0.06
115	進藤 真優	0.02
116	大島 幸太郎	0.02
117		

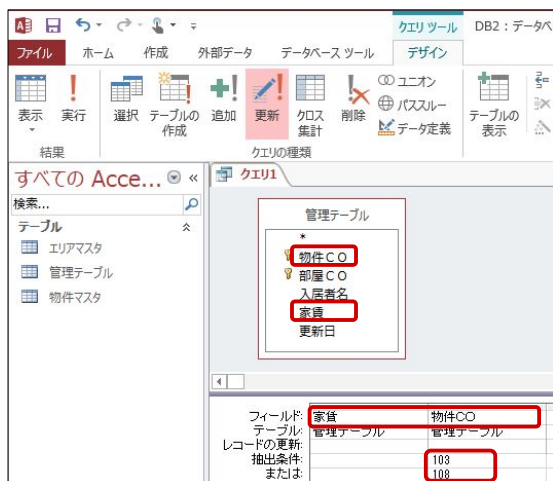
計算式での更新

指示された項目の計算結果で更新します。

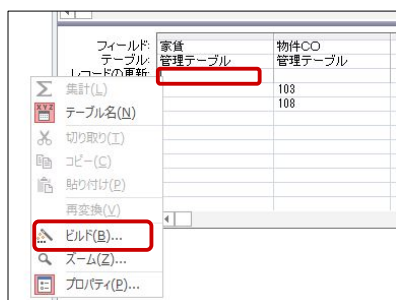
(例：2級－7 P. 42)

1. <管理テーブル>の物件COが103または108のレコードの家賃から1,000を減算し、更新しなさい。
[更新件数：30件]

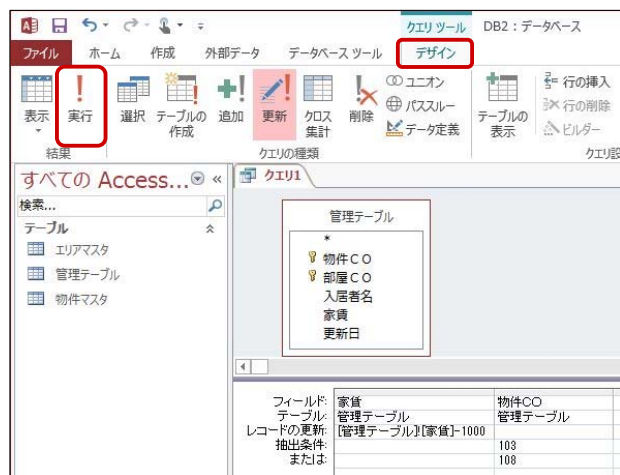
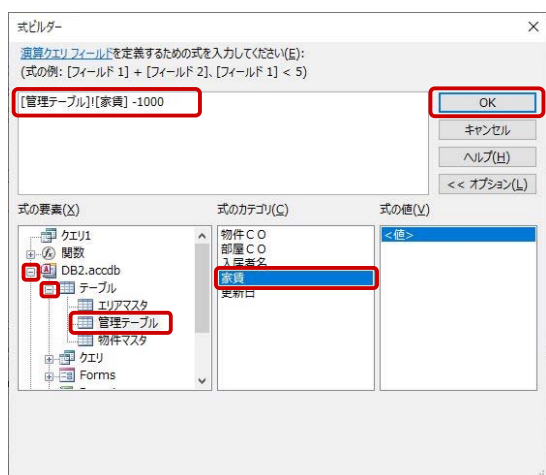
- (1)更新クエリを作成し、クエリデザイニングリッドに「家賃」と「物件CO」を追加して「物件CO」の[抽出条件]にそれぞれ「103」、「108」と入力します。



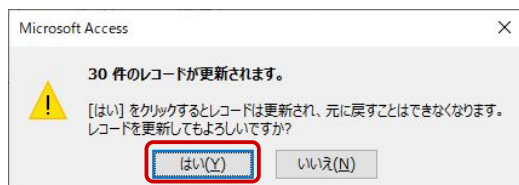
- (2)「家賃」の[レコードの更新]で右クリックし、[ビルド]を選択します。



- (3)[式ビルダー]ダイアログボックスの[式の要素]で、作成したデータベースファイルの[+]をクリックして展開し、[管理テーブル]を選択します。[式のカテゴリ]で[家賃]をダブルクリックし、[式]ボックスに「[管理テーブル]!家賃」と表示されたら「-1000」と入力し、[OK]をクリックして[実行]をクリックします。



(4) 「30件のレコードが更新されます。」のメッセージの[はい]をクリックします。



(5) クエリに名前を付けて保存します。

「管理テーブル」を確認すると、「物件 CO」が「103」または「108」の「家賃」が「1,000」減算されて更新されていることが確認できます。

物件CO	部屋CO	入居者名	家賃	更新日
103	11	川村 真優	52000	2023/06/01
103	12	森脇 晴子	44500	2023/09/29
103	13	小原 武志	47000	2023/10/15
103	14	松村 礼子	52000	2023/01/21

108	32	小原 晴夫	54500	2023/05/04
108	33	坂東 礼子	47000	2023/06/23
108	34	佐咲 香	54500	2023/11/02
108	35	上山 貴子	43000	2023/06/11

103	11	川村 真優	51000	2023/06/01
103	12	森脇 晴子	43500	2023/09/29
103	13	小原 武志	46000	2023/10/15
103	14	松村 礼子	51000	2023/01/21

108	32	小原 晴夫	53500	2023/05/04
108	33	坂東 礼子	46000	2023/06/23
108	34	佐咲 香	53500	2023/11/02
108	35	上山 貴子	42000	2023/06/11

レポートでのグループ化・グループごとの関数処理

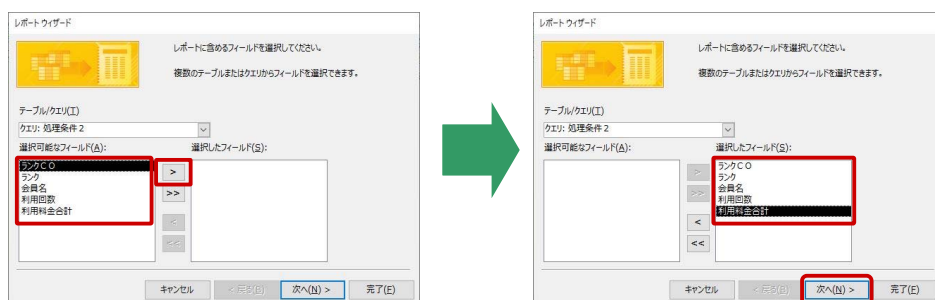
(例：2級ー3 P. 38)

3. ランクCO・ランクごとにグループ化した表を作成しなさい

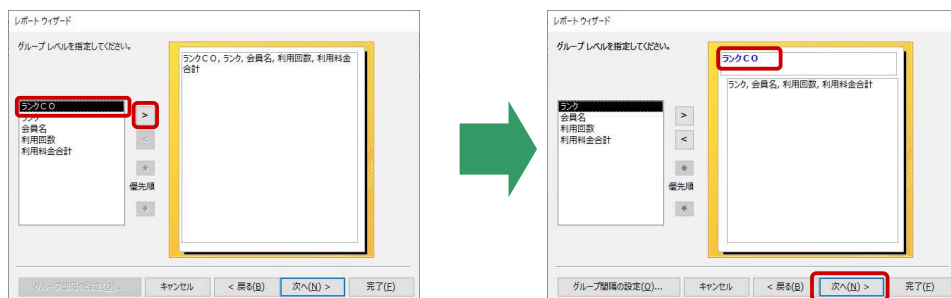
表題は“ランク別利用状況一覧表（10回以上または15,000円以上）”とする。

データの並び順はランクCOの昇順で利用料金合計の昇順とし、表の形式は＜出力例＞のとおりとする。

(1) [作成]タブ-[レポート]グループの[レポートウィザード]をクリックします。[テーブル/クエリ]は処理条件2で作成した「クエリ:処理条件2」を選択し、＜出力例＞の項目を選択します。すべて選択されたことを確認し、[次へ]をクリックします。



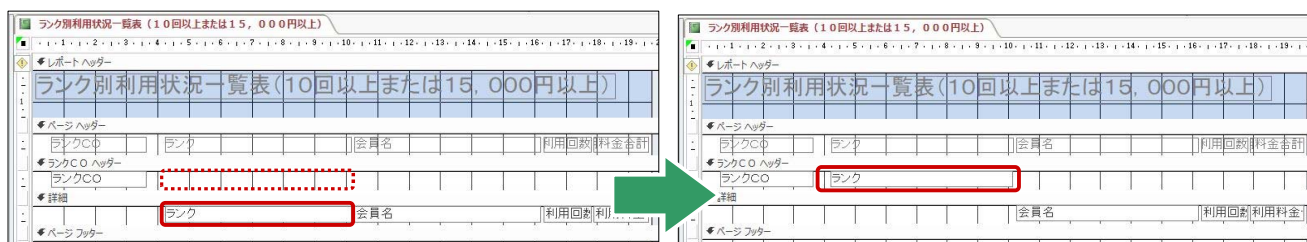
(2) 「ランクCO」をグループレベルに指定し[次へ]をクリックしてレポートを作成します。



検定のポイント

指示では「ランクCO・ランクごとにグループ化」とあります。この場合は「ランクCO」（先頭の項目）のみ選択し、他の項目はレポートで行います。

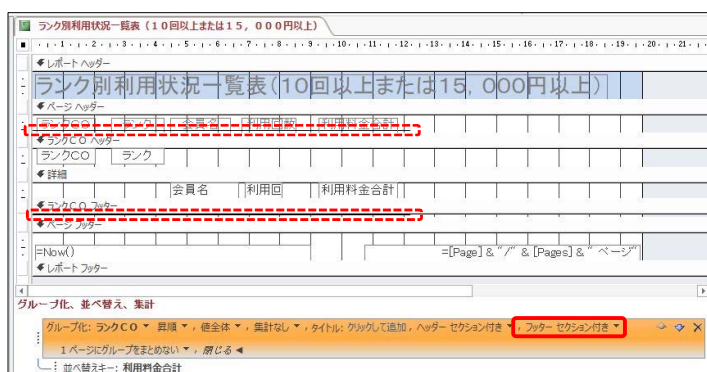
(3) [詳細]セクションにある「ランク」テキストボックスを[ランクCOヘッダー]にドラッグして移動します。



(4) ランクCOが昇順に並べ替えされていることを確認し、[並べ替えの追加]をクリックして指示どおりの並び順にします。



(5) [グループ化]の「ランクCO」の[その他]をクリックし、[フッターセクションなし]から[フッターセクション付き]を選択して[ランクCOフッター]を表示し、[ページヘッダー]、[ランクCOフッター]に罫線を挿入して表示形式の設定などを行います。



グループ化を行わなかった場合、下図のような表になってしまいます。

<グループ化されている>

ランクCO	ランク	会員名	利用回数	利用料金合計
1	ホワイト	外山 鈴香	10	11,300
		玉木 利音	10	14,300
		富山 正和	7	15,300
2	ブロンズ	小口 雅行	10	12,800
		南部 卓博	9	15,700
		沖本 一博	9	16,800
		外山 和花	9	19,000
3	シルバー	丹羽 隆仁	10	12,300
		原 愛央衣	9	16,800
		竹中 裕実	8	17,100
4	ゴールド	井村 美月	8	15,000
		塩田 奏太	8	16,300
		牧田 理穂	9	16,800
5	プラチナ	川田 清	10	15,900
		水上 治	10	16,200
		熊田 元	9	18,500

<グループ化されていない>

ランクCO	ランク	会員名	利用回数	利用料金合計
1	ホワイト	外山 鈴香	10	11,300
		玉木 利音	10	14,300
		富山 正和	7	15,300
2	ブロンズ	小口 雅行	10	12,800
		南部 卓博	9	15,700
		沖本 一博	9	16,800
		外山 和花	9	19,000
3	シルバー	丹羽 隆仁	10	12,300
		原 愛央衣	9	16,800
		竹中 裕実	8	17,100
4	ゴールド	井村 美月	8	15,000
		塩田 奏太	8	16,300
		牧田 理穂	9	16,800
5	プラチナ	川田 清	10	15,900
		水上 治	10	16,200
		熊田 元	9	18,500

検定のポイント

指示の中にはグループ化した表の中で集計をするものもあり、その場合は追加で以下のような操作が必要になります。

(例：２級－４　Ｐ．３９)

４．区分ＣＯ・区分ごとにグループ化し、区分ＣＯ・区分ごとに商品名をカウントした表を作成しなさい。

商品名のカウントは“アイテム数”とする。

(例：２級－４　Ｐ．３９)

４．区分ＣＯ・区分ごとにグループ化し、区分ＣＯ・区分ごとに商品名をカウントした表を作成しなさい。

商品名のカウントは“アイテム数”とする。

(例：２級－４　Ｐ．３９)

４．区分ＣＯ・区分ごとにグループ化し、区分ＣＯ・区分ごとに商品名をカウントした表を作成しなさい。

商品名のカウントは“アイテム数”とする。

デザインビュー

The diagram illustrates the process of adding a formula to the report header. On the left, a screenshot of the '区分別在庫一覧表 (最小数量50以下)' report shows the '区分' (Division) column header. A red dashed box highlights this header, with a white arrow pointing to it from the right. On the right, the same report is shown, but the '区分' header is replaced by a formula: `=Count([商品名])`. A red solid box highlights this formula, with a green arrow pointing to it from the left. This indicates that the formula is used to count the number of items in each division.

The diagram illustrates the process of adding a formula to the report header. On the left, a screenshot of the '区分別在庫一覧表 (最小数量50以下)' report shows the '区分' (Division) column header. A red dashed box highlights this header, with a white arrow pointing to it from the right. On the right, the same report is shown, but the '区分' header is replaced by a formula: `=Count([商品名])`. A red solid box highlights this formula, with a green arrow pointing to it from the left. This indicates that the formula is used to count the number of items in each division.

- (1) 詳細セクションの「商品名」テキストボックスを
[区分 CO ヘッダー]にコピーします。
- (2) コピーした「商品名」テキストボックスを選択し
F2 キーを押して、「=count(商品名)」と入力し
ます。
- (3) ページヘッダーの「商品名」ラベルを[区分 CO
ヘッダー]にコピーし、「アイテム数」に修正しま
す。
- (4) [区分COヘッダー]に罫線を挿入します。

操作のポイント

入力した関数が正しければ、修正確定後「=Count([・・・])」となります。

＜その他の関数＞

合	計	：	=Sum(項目名)
平	均	：	=Avg(項目名)
最	大	：	=Max(項目名)
最	小	：	=Min(項目名)

操作のポイント

入力した関数が正しければ、修正確定後「=Count([・・・])」となります。

＜その他の関数＞

合	計	：	=Sum(項目名)
平	均	：	=Avg(項目名)
最	大	：	=Max(項目名)
最	小	：	=Min(項目名)

操作のポイント

入力した関数が正しければ、修正確定後「=Count([・・・])」となります。

＜その他の関数＞

合	計	：	=Sum(項目名)
平	均	：	=Avg(項目名)
最	大	：	=Max(項目名)
最	小	：	=Min(項目名)

操作のポイント

入力した関数が正しければ、修正確定後「=Count([・・・])」となります。

＜その他の関数＞

合	計	：	=Sum(項目名)
平	均	：	=Avg(項目名)
最	大	：	=Max(項目名)
最	小	：	=Min(項目名)

操作のポイント

入力した関数が正しければ、修正確定後「=Count([・・・])」となります。

＜その他の関数＞

合	計	：	=Sum(項目名)
平	均	：	=Avg(項目名)
最	大	：	=Max(項目名)
最	小	：	=Min(項目名)

操作のポイント

入力した関数が正しければ、修正確定後「=Count([・・・])」となります。

＜その他の関数＞

合	計	：	=Sum(項目名)
平	均	：	=Avg(項目名)
最	大	：	=Max(項目名)
最	小	：	=Min(項目名)

操作のポイント

入力した関数が正しければ、修正確定後「=Count([・・・])」となります。

＜その他の関数＞

合	計	：	=Sum(項目名)
平	均	：	=Avg(項目名)
最	大	：	=Max(項目名)
最	小	：	=Min(項目名)

その他の問題（１級）

データを列見出しとして使用し、集計する場合に使うクエリです。

(例：1級－3 P. 54)

4. 請求年月とランクごとに請求金額を集計（合計）する。

	処理条件 4	
	処理結果件数 4 件	

(例：1級－3 P. 54)

4. 請求年月とランクごとに請求金額を集計（合計）する。

	処理条件 4	
	処理結果件数 4 件	

(例：1級－3 P. 54)

4. 請求年月とランクごとに請求金額を集計（合計）する。

	処理条件 4	
	処理結果件数 4 件	

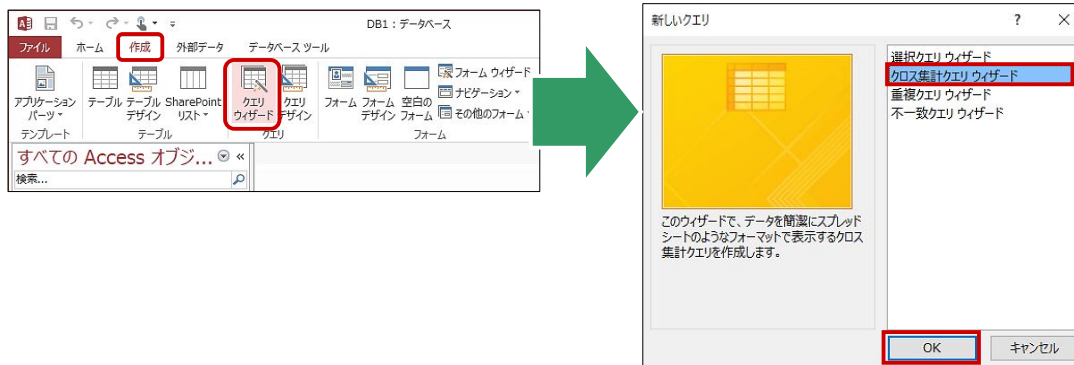
出力例を見ると、ランクのデータが列見出しになっています。

The diagram illustrates the data flow from the 'Output Example' to the 'Ranking Master' table. On the left, under the heading '<出力例>' (Output Example), there is a table titled 'ランク別未払い集計表 (ゴールド以外)' (Ranking-based Unpaid Settlement Table (excluding Gold)). This table has columns for '請求年月' (Request Year/Month), 'ブロンズ' (Bronze), 'シルバー' (Silver), and 'プラチナ' (Platinum). The data rows show values for 202305, 202307, and a total row. A red box highlights the 'ブロンズ' column. A large green arrow points from this box to the 'Ranking Master' table on the right. The 'Ranking Master' table, titled 'ランクマスタ', has columns for 'ランク' (Rank), 'ランク' (Rank), and '倍率' (Multiplier). It lists ranks 1 through 4 with corresponding multipliers: 1 (ブロンズ, 0.1), 2 (シルバー, 0.2), 3 (ゴールド, 0.3), and 4 (プラチナ, 0.4). A red box highlights the 'ブロンズ' entry in rank 1.

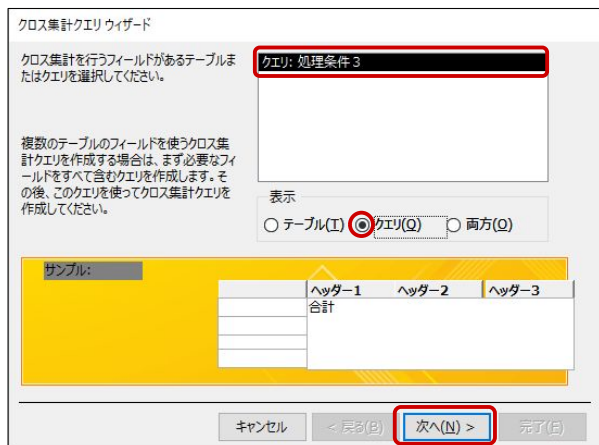
The diagram illustrates the data flow from the 'Output Example' to the 'Ranking Master' table. On the left, under the heading '<出力例>' (Output Example), there is a table titled 'ランク別未払い集計表 (ゴールド以外)' (Ranking-based Unpaid Settlement Table (excluding Gold)). This table has columns for '請求年月' (Request Year/Month), 'ブロンズ' (Bronze), 'シルバー' (Silver), and 'プラチナ' (Platinum). The data rows show values for 202305, 202307, and a total row. A red box highlights the 'ブロンズ' column. A large green arrow points from this box to the 'Ranking Master' table on the right. The 'Ranking Master' table, titled 'ランクマスタ', has columns for 'ランク' (Rank), 'ランク' (Rank), and '倍率' (Multiplier). It lists ranks 1 through 4 with corresponding multipliers: 1 (ブロンズ, 0.1), 2 (シルバー, 0.2), 3 (ゴールド, 0.3), and 4 (プラチナ, 0.4). A red box highlights the 'ブロンズ' entry in rank 1.

フィールド名ではなく、データを列見出しにする場合、クロス集計クエリを使います。

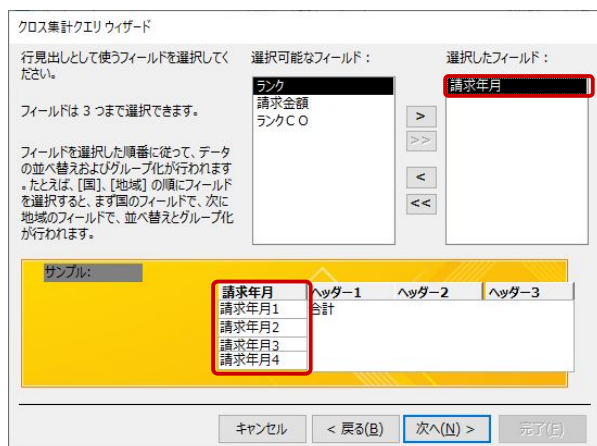
- (1) [作成]タブ-[クエリ]グループの[クエリウィザード]をクリックし、[クロス集計クエリウィザード]を選択して[OK]をクリックします。



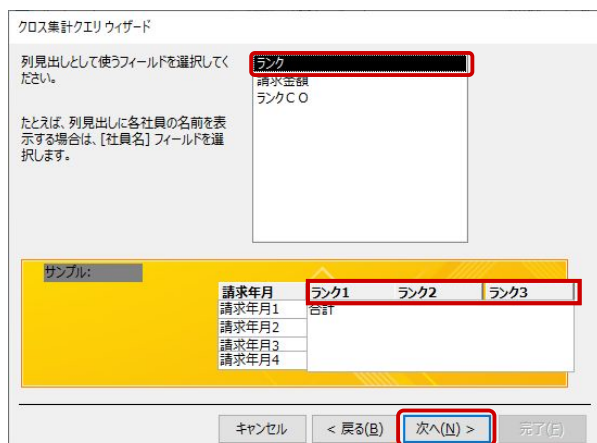
- (2) [表示]を[クエリ]にチェックを入れ、処理条件3で作成したクエリを選択し、[次へ]をクリックします。



- (3) [選択可能なフィールド]の「請求年月」を選択し、[>]をクリックして[選択したフィールド]に移し、[次へ]をクリックします。



- (4) 「ランク」を選択し、[次へ]をクリックします。



- (5) [フィールド]は「請求金額」を、[集計方法]は[合計]を選択し、[集計値を表示する]のチェックを外して[次へ]をクリックします。

クロス集計クエリウィザード

集計する値があるフィールドと、集計方法を選択してください。

たとえば、国および地域別、営業社員別に売上の合計を求めることができます。この場合、行見出しに国と地域を、列見出しに営業社員を表示します。

行ごとに集計値を表示しますか？

☐ 集計値を表示する(Y)

フィールド：

ランク1
請求金額

集計方法：

Min
StDev
Var
カウント
先頭
合計
平均
最大
最後

サンプル：

請求年月	ランク1	ランク2	ランク3
請求年月1	合計(請求金額)		
請求年月2			
請求年月3			
請求年月4			

キャンセル < 戻る(B) **次へ(N) >** 完了(F)

- (6) クエリ名を入力し、[クエリを実行して結果を表示する]にチェックをして[完了]をクリックします。

クロス集計クエリウィザード

クエリ名を指定してください。

☒ 処理条件 4

これで、クエリを作成するための設定は終了しました。

クエリを作成した後に行うことを選択してください。

☒ クエリを実行して結果を表示する(Y)

☐ クエリのデザインを編集する(M)

キャンセル < 戻る(B) **次へ(N) >** **完了(F)**

- (7) 結果が表示されます。

請求年月	シルバー	プラチナ	ブロンズ
202304	4690		38360
202305	52220	30140	33920
202306	192590	64700	201210
202307	437020	223280	393580

検定のポイント

※問題によって列の並びは、レポートで出力例どおりに並べ替える必要があります。

クロス集計でランクのデータを列見出しにして請求金額の合計を求めた場合

請求年月	シルバー	プラチナ	ブロンズ
202304	4690		38360
202305	52220	30140	33920
202306	192590	64700	201210
202307	437020	223280	393580

請求年月・ランクごとに請求金額の合計を求めた場合

請求年月	ランク	請求金額の合計
202304	シルバー	4690
202304	ブロンズ	38360
202305	シルバー	52220
202305	プラチナ	30140
202305	ブロンズ	33920
202306	シルバー	192590
202306	プラチナ	64700
202306	ブロンズ	201210
202307	シルバー	437020
202307	プラチナ	223280
202307	ブロンズ	393580

重複レコードの処理

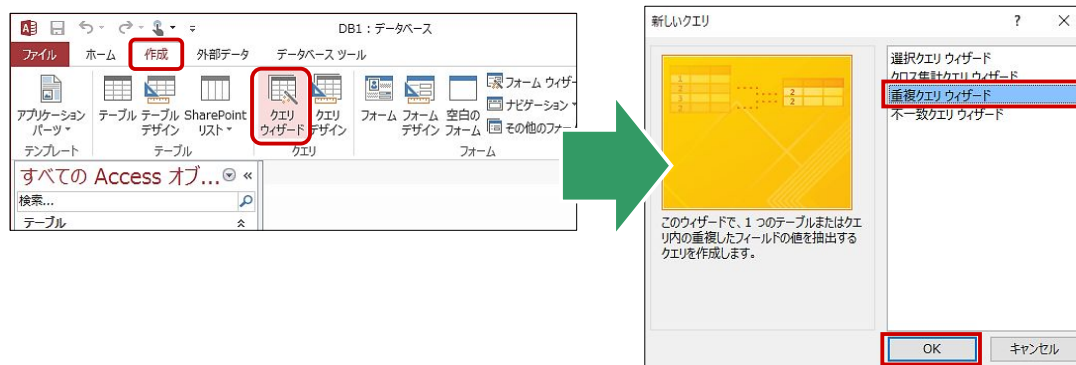
データが複数あるレコードを抽出するクエリです。

(例：1級－9 P. 60)

2. 顧客C O・商品C Oが重複するデータの顧客C O・商品C O・売上年月・数量を抽出する。

処理条件 2
処理結果件数 7 0 9 件

(1) [作成]タブ-[クエリ]グループの[クエリウィザード]をクリックし、[重複クエリウィザード]を選択して[OK]をクリックします。



(2) [表示]を[テーブル]にチェックを入れ「請求テーブル」を選択し、[次へ]をクリックします。



(3) [選択可能なフィールド]の「顧客C O」と「商品C O」をそれぞれ選択し、[>]をクリックして[選択したフィールド]に移し、[次へ]をクリックします。



(4) [>>]をクリックして[選択したフィールド]に項目をすべてを移し、[次へ]をクリックします。



- (5) クエリ名を入力し、[クエリを実行して結果を表示する]にチェックを入れて[完了]をクリックします。
重複するレコードが表示されます。

重複クエリウィザード

クエリ名を指定してください。
処理条件 2

クエリを作成した後に実行を行うことを選択してください。
☒ クエリを実行して結果を表示する(V)
☐ クエリのデザインを編集する(M)

キャンセル < 戻る(B) 完了(F)



処理条件 2

顧客CO	商品CO	売上年月	数量
10001	155	202303	1
10001	155	202301	5
10001	237	202301	39
10001	237	202302	5
10002	196	202301	18
10002	196	202302	8
10002	196	202303	2
10002	253	202301	6
10002	253	202303	7

レコード: 1 / 709 フィルターなし 検索

クエリによるテーブルの作成

クエリで抽出したデータをテーブルとして保存します。

(例: 1級-6 P. 57)

1. 商品COごとに上期請求を集計(合計)し、売上日が2023/1/1から2023/6/30までを抽出したテーブルを作成する。

上期請求 = 単価 × 売上数 × (1 - 割引率)

処理条件 1
処理結果件数 125件

- (1) クエリを新規作成し、指示された計算・集計・抽出を行います。

クエリ1

売上テーブル

- 顧客CO
- 売上日
- 商品CO
- 売上数

顧客マスタ

- 顧客CO
- 顧客名
- 割引率
- エリアCO

商品マスタ

- 商品CO
- 商品名
- 単価
- 区分CO

フィールド: 商品CO
テーブル: 売上テーブル
集計: グループ化
並べ替え: 表示
抽出条件: 売上日

フィールド	商品CO	売上テーブル	上期請求: [単価] × [売上数] × (1 - 割引率)	売上日
テーブル	売上テーブル	グループ化	合計	売上テーブル
並べ替え				Where 条件
抽出条件				>=#2023/01/01# And <=#2023/06/30#

- (2) [クエリツール]-[デザイン]タブ-[クエリの種類]グループの[テーブルの作成]をクリックします。

クエリツール DB1: データベース

デザイン

すべての Access ...

検索...

テーブル

- 区分マスタ
- 顧客マスタ
- 商品マスタ
- 売上テーブル

クエリ1

売上テーブル

- 顧客CO
- 売上日
- 商品CO
- 売上数

顧客マスタ

- 顧客CO
- 顧客名
- 割引率
- エリアCO

商品マスタ

- 商品CO
- 商品名
- 単価
- 区分CO

フィールド: 商品CO
テーブル: 売上テーブル
集計: グループ化
並べ替え: 表示
抽出条件: 売上日

フィールド	商品CO	売上テーブル	上期請求: [単価] × [売上数] × (1 - 割引率)	売上日
テーブル	売上テーブル	グループ化	合計	売上テーブル
並べ替え				Where 条件
抽出条件				>=#2023/01/01# And <=#2023/06/30#

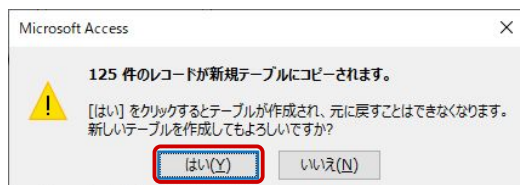
(3) [テーブル名]に任意の名前を入力し、[OK]をクリックします。



検定のポイント

テーブル名は“一時テーブル”以外の名前でも構いません。

(4) [実行]をクリックし「125件のレコードが新規テーブルにコピーされます。」のメッセージの[はい]をクリックします。



(5) クエリに名前を付けて保存します。

不一致レコードの処理

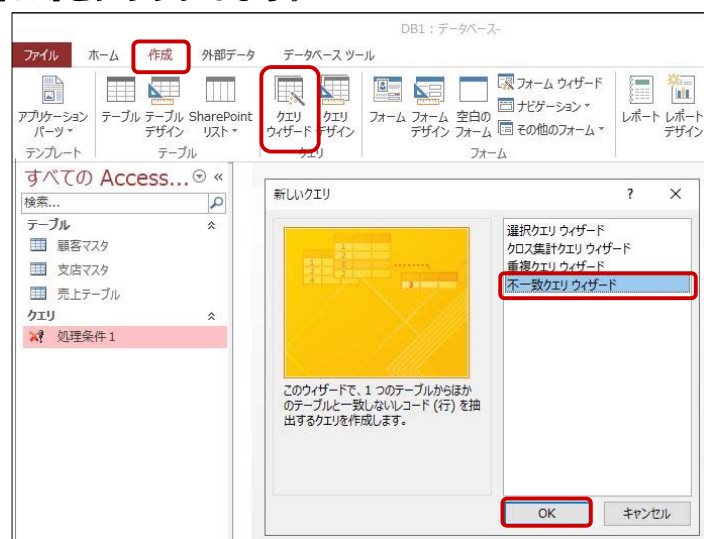
2つのテーブルを比較し、一致しないレコードを抽出するクエリです。

(例：1級ー1 P. 52)

2. <顧客マスタ>を基準に顧客C Oを比較し、一致しないデータを抽出する。

処理条件 2
処理結果件数 4 9 件

(1) [作成]タブ-[クエリ]グループの[クエリウィザード]をクリックし、[不一致クエリウィザード]を選択して[OK]をクリックします。



(2) [表示]を[テーブル]にチェックを入れ[顧客マスタ]を選択し、[次へ]をクリックします。次に[表示]を[テーブル]にチェックを入れ[売上テーブル]を選択し、[次へ]をクリックします。



- (3) [顧客マスタのフィールド]は「顧客C O」を[売上テーブルのフィールド]は「顧客C O」を選択し、[<=>]をクリックして[関連付けるフィールド]に「顧客C O <=> 顧客C O」と表示されているのを確認し、[次へ]をクリックします。

- (4) [>>]をクリックし、[選択可能なフィールド]から[選択したフィールド]へ移して [次へ] をクリックします。

- (5) 任意のクエリ名を入力し、[完了]をクリックします。「顧客マスタ」と比較対象の「売上テーブル」で、一致しないレコードが抽出されます。

顧客C O	顧客名	支店C O
1001	タクト	12
1002	クレア	14
1003	サカイ	11
1010	丸和	11
1020	ナック	12
1021	アリス	13
1025	ヒロ	14
1026	小林商事	11
1029	エーワン	11
1054	プラネット	12
1056	中村商事	12
1060	セントラル	13
1062	ミューズ	10

レコードの追加の応用

作成したクエリのデータを既存のテーブルに追加します。

追加クエリについて

追加クエリは、同じフィールド名でなくても、同じデータ型であれば対応するフィールドにレコードを追加することができます。

2級では、追加元と追加先のフィールド名が同じ場合のレコードの追加を行いました。

1級では、データ型が同じで追加元にはないフィールド名の場合のレコードの追加を行います。

(例：1級－4 P. 55)

1. 会員C Oごとに請求金額を集計（合計）し、販売日が 2023/7/1 から 2023/7/31 までを抽出したレコードを<請求テーブル>に追加する。

請求金額＝単価×数量

請求年月←202307

入金フラグ←0

処理条件 1
追加件数 103件

処理条件に従って、追加先の「請求テーブル」には「請求年月」・「入金フラグ」があるが「販売テーブル」・「商品マスタ」には対応するフィールドがないので、処理条件に従った値にします。

追加元

処理条件1の計算・集計・抽出結果

A

B

会員CO	請求金額
------	------

追加先

請求テーブル

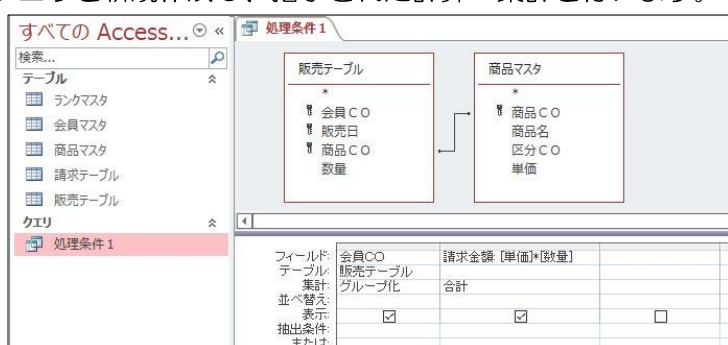
A

B

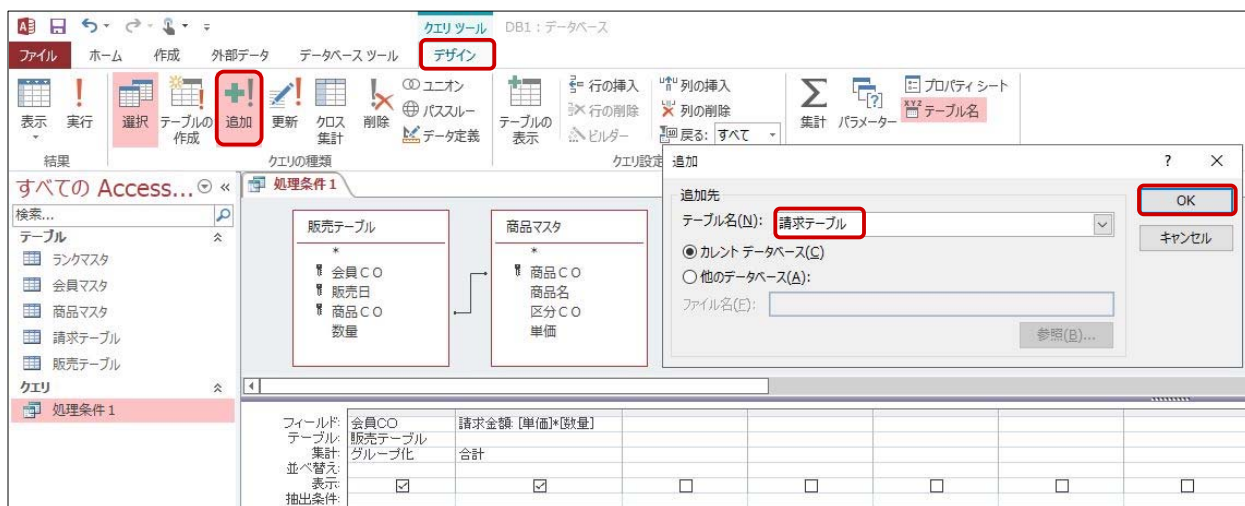
会員CO	請求年月	請求金額	入金フラグ
------	------	------	-------

会員CO	"202307"	請求金額	"0"
------	----------	------	-----

(1) クエリを新規作成し、指示された計算・集計を行います。



(2) [クエリツール]-[デザイン]タブ-[クエリの種類]グループの[追加]をクリックし、[追加先]の[テーブル名]を「請求テーブル」にして[OK]をクリックします。



(3) [レコードの追加]に「請求テーブル」に対応する項目を追加します。

フィールド:	会員CO	請求金額 [単価]*[数量]		
テーブル:	販売テーブル	合計		
集計:	グループ化			
並べ替え:				
レコードの追加:	会員CO	請求金額	請求年月	請求テーブル.*
抽出条件:				会員CO
また:				請求年月
				請求金額
				入金フラグ

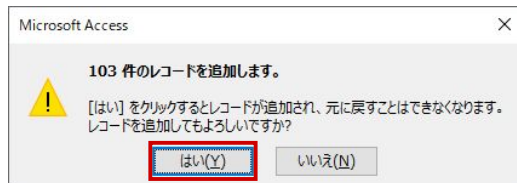
(4) 指示された値を入力し、抽出条件を入力します。

フィールド:	会員CO	請求金額 [単価]*[数量]	式1: 202307	式2: 0	販売日
テーブル:	販売テーブル				販売テーブル
集計:	グループ化	合計	グループ化	グループ化	Where 条件
並べ替え:					
レコードの追加:	会員CO	請求金額	請求年月	入金フラグ	
抽出条件:					>=#2023/07/01# And <=#2023/07/31#
または:					

操作のポイント

値を入力すると、自動的に「式1:XXX」と表示されますが、そのまま構いません。
文字列の場合は「" "」と半角で文字を囲みます。

(5) 「103件のレコードを追加します。」のメッセージの[はい]をクリックします。



(6) クエリを保存します。

処理条件どおりに請求テーブルに追加されていることが確認できます。

追加前

会員CO	請求年月	請求金額	入金フラグ
101	202304	8310	1
101	202305	24000	1
101	202306	22020	1
102	202304	6160	1
102	202305	18280	1
102	202306	14190	0
103	202305	5620	1
103	202306	5070	1
104	202304	4220	1
104	202305	4300	1
104	202306	4510	0
105	202304	4560	1
105	202305	10010	0
105	202306	2820	1
106	202304	2410	1
106	202305	7060	1
106	202306	20430	1
107	202304	1390	1
107	202305	12910	1

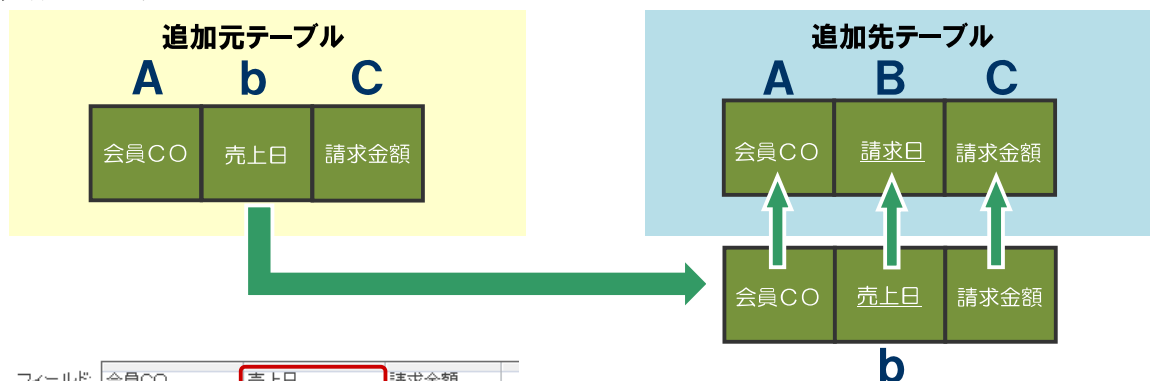
追加後

会員CO	請求年月	請求金額	入金フラグ
101	202304	8310	1
101	202305	24000	1
101	202306	22020	1
101	202307	4400	0
102	202304	6160	1
102	202305	18280	1
102	202306	14190	0
102	202307	25690	0
103	202305	5620	1
103	202306	5070	1
103	202307	23190	0
104	202304	4220	1
104	202305	4300	1
104	202306	4510	0
104	202307	9980	0
105	202304	4560	1
105	202305	10010	0
105	202306	2820	1
105	202307	4640	0

操作のポイント

追加元と追加先で、同じデータ型であれば異なるフィールド名の項目を追加することができます。

例) 請求日←売上日



フィールド:	会員CO	売上日	請求金額
テーブル:	売上テーブル	売上テーブル	売上テーブル
並べ替え:			
レコードの追加:	会員CO	請求日	請求金額
抽出条件:			
または:			

外部結合

(例：1級ー6 P. 57)

4. <商品マスタ>のすべての商品C Oを含め、請求合計を求める。

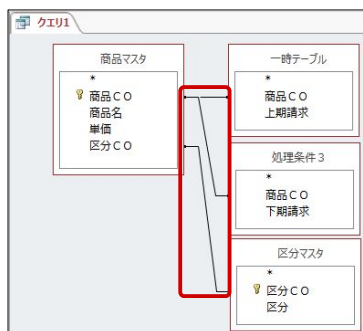
請求合計＝上期請求＋下期請求 ※n z 関数使用

請求合計が 400,000 以上を抽出する。

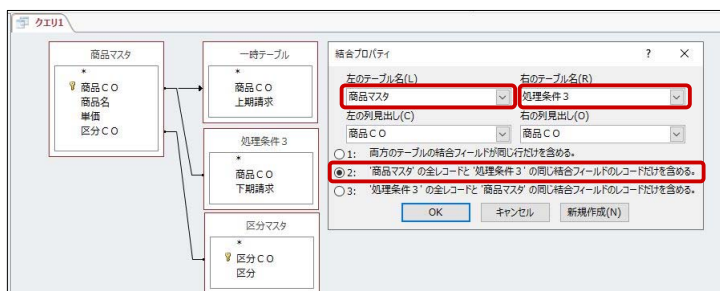
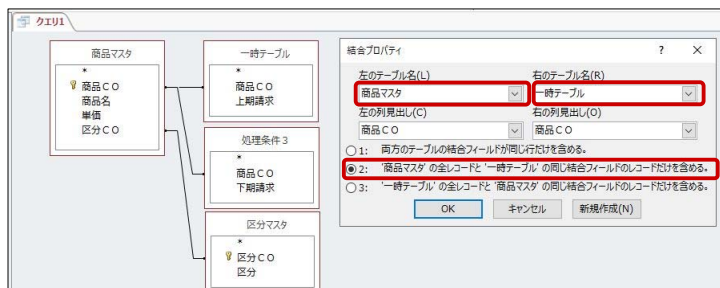
処理条件 4

処理結果件数 8 件

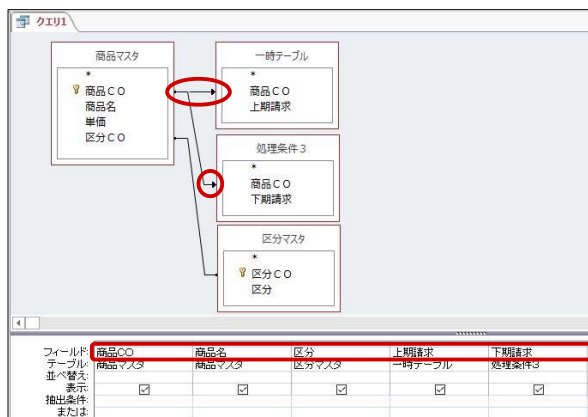
- (1)クエリを新規作成し、クエリウィンドウに「商品マスタ」・処理条件1で作成したテーブル・処理条件3で作成したクエリ・「区分マスタ」を追加し、「商品C O」と「区分C O」を関連付けします。



- (2)「商品マスタ」と処理条件1で作成したテーブル間の結合線をダブルクリックし、[結合プロパティ]を開き、「商品マスタ」の全レコードと・・・と表示されている番号にチェックを入れます。同様に「商品マスタ」と処理条件3で作成したクエリにも行います。



- (3)結合線が矢印になったら、必要な項目を選択します。



外部結合により、すべての商品C Oが表示されるようになりました。

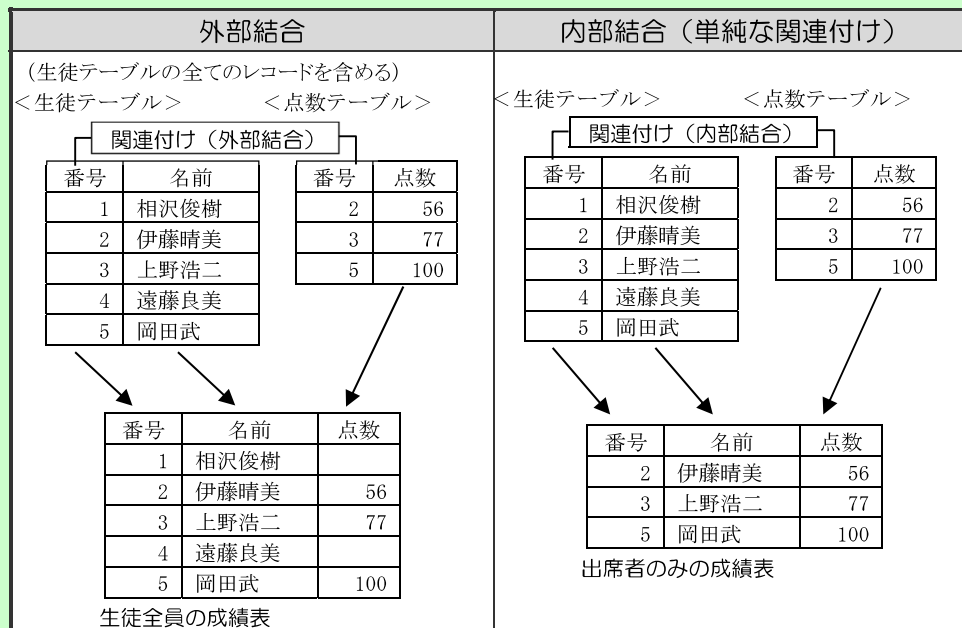
商品C O	商品名	区分	上期請求	下期請求
1001	こしょう	食料品	13818	17115
1002	レトルトカレー中辛	食料品	10507	14668
1003	パスタソースカルボナーラ	食料品	5907	6017
1004	かき氷宇治抹茶	食料品	13806	8100
1005	ラー油	食料品	10047	13277
1006	レモン果汁	食料品	12960	14944
1007	合わせみそ	食料品	10948	11638
1008	レトルト中華丼	食料品	9342	12726
1009	マスタートード	食料品	13288	16302
1010	パスタソースたらこ	食料品	7898	6215
1011	瓶詰めオリーブ	食料品	8704	
1012	シナモン	食料品	8300	12840
1013	ハッカク	食料品	11684	
1014	西洋だし	食料品	8760	10185
1015	グリーンカレー	食料品	14858	7714
1016	ブラックベッパ	食料品	22243	16269
1017	厚揚げ	食料品	12096	11284
1018	かんも	食料品	8660	7360
1019	チキンバターカレー	食料品	19476	10800
1020	ピーナッツバター	食料品	11533	7771
1021	グアバジュース	飲料	9360	7080
1022	マイルドコーヒー	飲料	6643	9555
1023	無糖紅茶	飲料	5595	8730
1024	アップルジュース	飲料	7590	3883
1025	ジャパティ	飲料		5516
1026	果汁100%リンゴ	飲料	17913	17367

※外部結合をしなかった場合

商品C O	商品名	区分	上期請求	下期請求
1001	こしょう	食料品	13818	17115
1002	レトルトカレー中辛	食料品	10507	14668
1003	パスタソースカルボナーラ	食料品	5907	6017
1004	かき氷宇治抹茶	食料品	13806	8100
1005	ラー油	食料品	10047	13277
1006	レモン果汁	食料品	12960	14944
1007	合わせみそ	食料品	10948	11638
1008	レトルト中華丼	食料品	9342	12726
1009	マスタートード	食料品	13288	16302
1010	パスタソースたらこ	食料品	7898	6215
1012	シナモン	食料品	8300	12840
1014	西洋だし	食料品	8760	10185
1015	グリーンカレー	食料品	14858	7714
1016	ブラックベッパ	食料品	22243	16269
1017	厚揚げ	食料品	12096	11284
1018	かんも	食料品	8660	7360
1019	チキンバターカレー	食料品	19476	10800
1020	ピーナッツバター	食料品	11533	7771
1021	グアバジュース	飲料	9360	7080
1022	マイルドコーヒー	飲料	6643	9555
1023	無糖紅茶	飲料	5595	8730
1024	アップルジュース	飲料	7590	3883
1026	果汁100%リンゴ	飲料	17913	17367
1027	ビターコーヒー	飲料	7200	7710
1028	オレンジジュース	飲料	5510	7780
1030	天然水	飲料	12552	6480

外部結合と内部結合について

例) <生徒テーブル>には、全生徒分のデータが存在する。<点数テーブル>には、出席者のみのデータが存在する。



内部結合で関連付けを行うと、出席者のみの成績表しか表示されません。しかし、外部結合をすると<生徒テーブル>にある全生徒分の成績表が表示され、出席していない生徒の点数はnull 値 (空の状態) で表示されます。

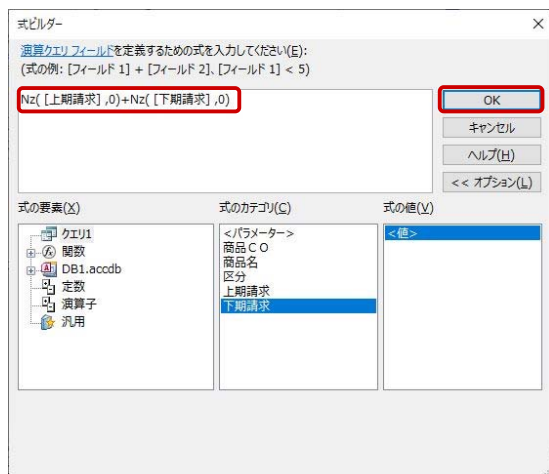
null (ヌル) 値とは

null は何もないことを意味する言葉で、データが存在しないこと、またはデータが不定であることを示す値を null 値といいます。

■ N Z 関数

null 値を 0（あるいは指定された値）に変換します。

- (1) 新しいフィールドで右クリックし、[式ビルダー]を起動します。「nz([上期請求],0)+nz([下期請求],0)」と入力し、[OK]をクリックします。



操作のポイント

NZ 関数の設定

nz([上期請求],0)

[上期請求]が null 値の場合、0 とする。

- (2) 「式 1」を「請求合計」と修正し、抽出条件を入力して[データシートビュー]で確認します。

フィールド:	商品CO	商品名	区分	上期請求	下期請求	請求合計: Nz([上期請求],0)+Nz([下期請求],0)
テーブル:	商品マスタ	商品マスタ	区分マスタ	一時テーブル	処理条件3	
並べ替え:						
表示:	☒	☒	☒	☒	☒	☒
抽出条件:						>=400000
または:						

「上期請求」、「下期請求」が null 値があっても、請求合計が表示されるようになりました。

商品CO	商品名	区分	上期請求	下期請求	請求合計
1044	トレンチコート	衣料(男)	587328	437470	1024798
1045	デニムパンツ	衣料(男)	200434	265680	466114
1051	冬用チェスターコート	衣料(男)		557112	557112
1053	スーツセットA	衣料(男)	517377	597980	1115357
1060	つなぎ	衣料(男)	164920	239100	404020
1065	ジャケット7分袖	衣料(女)	404243	485985	890228
1067	スーツセットB	衣料(女)	524790		524790
1090	トイレマット	雑貨	272500	127500	400000

N Z 関数を使用しなかった場合

商品CO	商品名	区分	上期請求	下期請求	請求合計
1044	トレンチコート	衣料(男)	587328	437470	1024798
1045	デニムパンツ	衣料(男)	200434	265680	466114
1053	スーツセットA	衣料(男)	517377	597980	1115357
1060	つなぎ	衣料(男)	164920	239100	404020
1065	ジャケット7分袖	衣料(女)	404243	485985	890228
1090	トイレマット	雑貨	272500	127500	400000